

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学特論Ⅰ	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	1年	授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習の目的は、(1)質的調査法および質的調査を用いた〈人口・家族・ジェンダー〉に関する文献を精読し、(2)その成果から問題設定・調査の企画設計・質的調査法と質的データの分析手法、データの理論化の手法を学び、(3)各自の研究テーマへの実践的な応用力を涵養することです。	メッセージ 質的調査方法について学び、社会現象としての人口と家族の変動について、ジェンダーの視点から考察していきましょう。
	到達目標 「ねらい」に記した目的に関する基本文献を講読対象とし、各文献に示された人口・家族・ジェンダー研究の知見を習得するとともに、各文献で採用されている問題設定・調査の企画設計・質的調査法と質的データ分析手法の特性、データの理論化の過程を検討する。これらの知見を応用して、質的調査法による各自の研究テーマへの具体的適用を図ることを到達目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 【授業の展開計画】 1. イントロダクション：本演習の目的と進め方 2-4. 質的調査法とは何か：質的調査の特性と種類（聞き取り調査、参与観察法、ライフヒストリー研究、内容分析、フィールドワーク）、その魅力と問題点 5. 聞き取り調査の方法（1） 6. 聞き取り調査の方法（2） 7. 質的データの整理と分析の手法 8. データから理論へ 9. 質的調査による〈人口・家族・ジェンダー〉の社会学(1)：基本文献（著書）の購読 10. 質的調査による〈人口・家族・ジェンダー〉の社会学(2)：基本文献（著書）の購読 11. 質的調査による〈人口・家族・ジェンダー〉の社会学(3)：基本文献（論文）の購読 12. 質的調査による〈人口・家族・ジェンダー〉の社会学(4)：基本文献（論文）の購読 13. フィールドワークとインタビュー調査の個別テーマへの応用実践(1)：受講生の個人発表と指導 14. フィールドワークとインタビュー調査の個別テーマへの応用実践(2)：受講生の個人発表と指導 15. 統括：質的調査法と〈人口・家族・ジェンダー〉の社会学 16. 統括：質的調査法と〈人口・家族・ジェンダー〉の社会学
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は指定しない。人口・家族・ジェンダーに関する講読文献は履修者の研究関心に応じて選定する。質的調査法については、岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』を必読文献とし、『佐藤郁哉『フィールドワーク（増補版）』『実践 質的データ分析入門』、桜井厚『インタビューの社会学』、ホルスタイン『アクティブ・インタビュー』、戈木クレイグヒル滋子『グラウンデッド・セオリー・アプローチ』などを参照する。その他参考文献については授業時に適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 平常点、購読文献の発表、応用実践の発表、討論の参加姿勢と貢献度で総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 家族社会学特論Ⅱ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学特論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	1年	授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人口・家族に関する現代的課題を、ジェンダー・エスニシティ・社会階層などの観点から考察します。社会現象としての人口と家族の変動（少子化・高齢化、結婚・離婚、育児・介護・家事労働、世界の人口増加、家族計画、人口転換・ポスト人口転換、家族政策・労働政策、人口移動、再生産領域のグローバル化等）に関して理解を深めると同時に、各自の研究の進展をはかります。</p> <p>到達目標 (1) 現代社会における人口・家族をめぐる問題群に関する文献を講読し、受講生による報告を行ったうえで議論、ジェンダー・エスニシティ・社会階層といった観点から考察を深める。(2) 各自の研究課題にそくした報告・議論を行い、それぞれの研究の進展をはかる。</p>	<p>人口・家族をめぐる現代的課題について、世界の動向をふまえながら、ジェンダー・エスニシティ・社会階層といった観点から考察していきましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内で指示する
2	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
3	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
4	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
5	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
6	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
7	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
8	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
9	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
10	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
11	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
12	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
13	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
14	受講生による報告と議論	授業内で指示する	
15	まとめ	授業内で指示する	
16	予備日	授業内で指示する	
	テキスト・参考文献・資料など	受講生と相談し選定する。	
	学びの手立て		
	評価	報告の内容、議論への参加姿勢と貢献度、平常点で総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 家族社会学特論Ⅰ（関連科目）
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性 これまでの研究史をしっかりと確認する作業を徹底的に行ない、これに自らの研究課題を位置付けた研究論文の作成をめざす。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特論 I	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-池田 栄史	1年	y-ikeda@ll.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現在の考古学研究は、文化人類学的傾向をもつアメリカ考古学的方法と歴史学的傾向を持つ中国や日本などの東洋考古学的方法の二つのあり方が認められる。沖縄の考古学はこの双方の考古学研究方法が混在する地域であり、その境界領域とも言える。本講義ではこのような双方の考古学研究方法の理論と研究事例を確認し、これが沖縄の考古学研究にどのような影響を及ぼしているかを検証する。	本授業の目的は修士課程で取り組もうとする研究課題に対して、どのような研究手法が望ましいか、研究史を振り返ることで見つけ出す手伝いをするにある。
到達目標	自らの研究課題とその研究手法をしっかりと確立する。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	基本的に講義形式の授業を行なう。 ただし、内容に応じて、先行する論文や研究書を輪読しながら、これを素材として講義を進めることもある。 大きくは考古学研究史、研究方法論、時代各説、研究特論という順序で、一年間を通した講義を進める。 講義の最後に質問を含めた討議の時間を設ける。
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。講義の中で、随時、紹介する。
学びの手立て	大学院生活はまずは自分で問題を発見し、解決する能力を身に着けること。
評価	出席と受講生の関心の度合いを見て評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文指導教官の授業との関連を確認して履修すること。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特論Ⅱ	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-池田 栄史	1年	緊急の場合は、y-ikeda@ll.u-ryukyu.ac.jpに連絡すること。	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	現在の考古学研究は、文化人類学的傾向をもつアメリカ考古学的方法と歴史学的傾向を持つ中国や日本などの東洋考古学的方法の二つのあり方が認められる。沖縄の考古学はこの双方の考古学研究方法が混在する地域であり、その境界領域とも言える。本講義ではこのような双方の考古学研究方法の理論と研究事例を確認し、これが沖縄の考古学研究にどのような影響を及ぼしているかを検証する。	前期の授業からの展開を図るので、連続して履修することが望ましい。		
学びの実践	到達目標	自らの研究課題と研究手法を確立すること。		
	学びのヒント	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>基本的に講義形式の授業を行なう。 ただし、内容に応じて、先行する論文や研究書を輪読しながら、これを素材として講義を進めることもある。 大きくは考古学研究史、研究方法論、時代各説、研究特論という順序で、一年間を通した講義を進める。 講義の最後に質問を含めた討議の時間を設ける。</p>		
学びの継続	テキスト・参考文献・資料など	特に指定しない。講義の中で、随時、紹介する。		
	学びの手立て	自ら学ぶ姿勢を確立すること。		
	評価	出席と受講生の関心の度合いを見て評価する。		
学びの継続	次のステージ・関連科目	修士論文指導教員の授業との関連を考えて履修すること。		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語教育学特論Ⅰ	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講は、田中実『小説の力 新し作品論のために』（大修館書店）を読むことを通して、国語科における文学的文章教材の在り方を考察する。また田近洵一『創造の〈読み〉新論—文学の〈読み〉の再生を求めて』（東洋館出版）と読み比べることによって、国語科における文学作品の位置付けを考察する。	メッセージ
	到達目標 国語科教育における、読みの問題について関心を持ち、国語科教材としての文学を検討できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	〈読みのアナキー〉＝「還元不可能な複数性」を越えて
	3	批評する〈語り手〉—芥川龍之介『羅生門』
	4	多層的意識構造のなかの〈劇作家〉—森鷗外『舞姫』
	5	『こゝろ』という掛け橋—夏目漱石『こゝろ』
	6	お話（プロット）を支えるカー太宰治『走れメロス』
	7	〈自閉〉の咆哮—中島敦『山月記』
	8	戦争と川端文学—川端康成『ざくろ』
9	「個」に生きた〈作家〉山川方夫—山川方夫『夏の葬列』	
10	《他者》という出口—井伏鱒二『山椒魚』	
11	新しい〈作品論〉のために	
12	創造の〈読み〉の理論	
13	創造の〈読み〉の視角	
14	〈読み〉の教育の実践的課題	
15	総括	
16		
	テキスト・参考文献・資料など	時間外学習の内容
	田中実『小説の力 新し作品論のために』（大修館書店）¥2100・田近洵一『創造の〈読み〉新論—文学の〈読み〉の再生を求めて』（東洋館出版）¥2800 全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』	
	学びの手立て	
	毎回、指定された章の要旨をまとめ、私見をまとめてください。授業は、その内容を、研究討議の形式で進めていきます。	
	評価	
	1～14回において扱った文学作品について、①教材研究資料、②受講者の問題意識に応じたレポートを課し、授業参加状況等を含めて総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語教育学特論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年		

学びの準備	ねらい 本講は、田近洵一『戦後国語教育問題史』（大修館書店）を読み、国語科教育学における、授業論、指導論、教材論、学習者論を考えていく。特に文学教育論を中心に行う。	メッセージ
	到達目標 戦後文学教育の問題史を検討し、文学教育の要件について考察する力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	戦後国語教育の出発点の問題	
	3	「言語教育と文学教育」論争	
	4	現実認識の文学教育	
	5	問題意識喚起の文学教育	
	6	「主観主義と客観主義」論争	
	7	十人十色の文学教育	
	8	状況認識の文学教育	
9	関係認識・変革の文学教育		
10	戦後教育としての国語単元学習		
11	戦後国語教育史の人びと（1）・・・古田擴		
12	戦後国語教育史の人びと（2）・・・増淵恒吉		
13	戦後国語教育史の人びと（3）・・・渡辺茂		
14	戦後国語教育史の人びと（4）・・・倉澤栄吉		
15	まとめ		
16			
	テキスト・参考文献・資料など 田近洵一『増補版戦後国語教育問題史』（大修館書店）2400円		
	学びの手立て 毎回、指定された範囲の要旨をまとめ、私見をまとめて発表してもらい、それを研究討議、検討することによって授業を進めていく。		
	評価 レジュメ（40%）、発表・討議（40%）、授業参加状況（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 グローバルな視点を持って地域社会の課題に取り組むことで、沖縄の自立と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際社会学特論	後期	月5	0
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新垣 誠	1年	makoto@ocjc.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国際社会に山積する問題を社会学の観点から見つめてみると、地域社会との関連性が見えてくる。目まぐるしく変化する東アジア情勢の中であって沖縄もその例に漏れない。難民や労働移民などの人口移動が近代国民国家にどのような影響を及ぼしてきたのか。これからの多文化共生社会の可能性を、沖縄を通して考える。</p>	<p>沖縄を取り巻く国際情勢は、日夜激しく変化している。国際テロリズムや難民の問題は、決して対岸の火事ではなく、私たち一人ひとりが自身の課題として受け止める必要がある。そのためには、どのような理論や知識、視点が重要となってくるのだろうか。その答えを共に見つけよう。</p>
到達目標	<p>①アメリカの対中東政策や新世界秩序の歴史を理解する。②それを背景として、現在アラブ諸国で起こっている様々な現象（「アラブの春」、シリア難民、イスラミックステイトなど）について分析、自らの意見を述べるようになる。③沖縄における多文化共生の実情や日本の難民受け入れ、外国人労働者の現状について概説できるようになる。④沖縄移民の歴史を理解し、その現状を説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、グローバリゼーションとは	グローバル化の定義を調べる。
	2	近代における人口移動	沖縄移民について調べる。
	3	沖縄の労働移民	移民の定義を調べる。
	4	プッシュ・プル要因～労働市場と移民政策	労働移民の歴史を調べる。
	5	ホスト国での移民コミュニティ	労働移民の歴史を調べる。
	6	近代国家とマイノリティー	マイノリティの定義を調べる。
	7	人種・民族・エスニシティ	エスニシティの定義を調べる。
	8	近代国民国家とアイデンティティ	アイデンティティの定義を調べる。
	9	「世界のウチナーンチュ・ネットワーク」	沖縄移民の歴史を調べる。
	10	アメリカと移民の歴史	アメリカ移民の歴史を調べる。
	11	アメリカの中東政策	米中東関係について調べる。
	12	ヨーロッパにおける植民地主義と移民問題	植民地主義について調べる。
	13	シリア難民とイスラムフォビア	シリア難民について調べる。
14	国際テロリズム	国際テロについて調べる。	
15	沖縄そして地球社会における多文化共生とは	学びの総括をする。	
16			
テキスト・参考文献・資料など	特定の教科書は使用せず、課題としてプリントや資料を、担当教員がそのつど準備する。		
学びの手立て	履修の心構えとして、積極的に授業に参加しディスカッションを行うこと。学びを深めるために、毎回与えられた課題を予習し、授業内でのディスカッションに備えること。		
評価	ディスカッションにおけるパフォーマンス50%、期末レポート50%（ディスカッションにおいては、あらかじめ読んできた課題の理解度と、理論的に議論を構築できるか、質問に適切に答えられるか、批判的思考に基づいて意見を述べることができるか、などを評価する。期末レポートにおいては、テーマの理解度と批判的思考能力、意見のオリジナリティを評価する。）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	学んだことをもとに、多文化共生社会実現に向けてのアクションを起こすことを視野に入れて欲しい。地域行政への政策提言を行ったり、グローバル化を意識した上で自らのライフスタイルを見直すことも期待する。

科目基本情報	科目名 社会学研究法特論	期別 前期	曜日・時限 水6	単位 2
	担当者 桃原 一彦	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			講義終了後またはメール等で問い合わせください。	

学びの準備	ねらい 本科目は、社会調査に基づいた研究テーマを有する大学院生が社会調査の企画と設計、調査の実施、分析・集計に関する知識と技能を実践的に習得することを目的とするものである。とくに、社会調査の技法に関する初歩から、研究テーマと方法論との論理構成上の積み上げ、さらに社会調査の実践等に関して指導していくものとする。調査方法論の基礎や調査倫理はもちろんのこと、質的調査の技法	メッセージ 学部で学んだ社会調査法を修士論文レベルで考え、使用し、マスターするための科目です。本科目は専門社会調査士資格の認定科目です。資格取得を目指す大学院生は、必ず履修してください。
	到達目標 社会調査の基本的な知識と技能を修士論文に使用できるようにマスターする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会調査の初歩（社会調査の企画・設計に向けたオリエンテーション）	社会調査の種類について調べる
	2	社会調査と調査倫理	調査の倫理的問題の事例を調べる
	3	研究方法とデータ収集法との論理的関係（個別具体的テーマから概念構成と仮説提示の論理へ）	修士論文の論理展開を考える
	4	社会調査の入口（学術情報ネットワークの活用術、CiNii等）	学術情報の検索、収集の実践
	5	社会調査の種類—質的調査①（参与観察法と非参与観察法）	参与観察法の事例を調べる
	6	社会調査の種類—質的調査②（ドキュメント分析と生活史法）	ドキュメント分析の事例を調べる
	7	社会調査の実践I—質的調査の実践（個別テーマに則し質的調査を用いてデータ収集を実践する）	論文での質的調査の可能性を考える
	8	社会調査の種類—量的調査①（概念構成および仮説提示から変数構築に向けて）	論文研究におけるキー概念の構築
	9	社会調査の種類—量的調査②（調査票の作成方法：ワーディング等の基本ルール）	調査票作成の実践
	10	社会調査の種類—量的調査③（対象者・フィールドの選定法、およびサンプリングの理論と技法）	サンプリングの実践
	11	社会調査の実践II—量的調査の実践（個別テーマに則し簡単な調査票調査の実践）	調査票の事例を集める作業
	12	量的データの整理①（エディティング、コーディング、データクリーニング）	量的データ処理の基本を実践
	13	量的データの整理②（フィールドノート作成、コードブック作成）	フィールドノートの事例を調べる
	14	量的分析とグラフ作成（標本誤差と簡単な検定法、およびSPSS等のPC活用術）	量的データ処理の応用
15	まとめとふりかえり（量的調査の報告レポート、および質的・量的調査に関する総合的なまとめ）	修士論文の方法を確立する	
16	補習	ふりかえりと修士論文指導	
	テキスト・参考文献・資料など 大谷信介他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年。 適宜紹介する。		
	学びの手立て 大学院教育の目標である修士論文の調査研究を前提とした講義になる。研究テーマの具体的な論理展開の参考に するように心がけてください。		
	評価 提出物（論文・レポートなど）、平常点（出席回数、発表やディスカッションへの取り組み姿勢）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 比較社会文化特論 I
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性

本授業は専門社会調査士資格取得のための科目であり、「多変量解析に関する演習（実習）科目」に該当します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学特論	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	1年	ptt505@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会学的な研究で用いられることの多い離散データ（クロス集計表や2値データ）の分析法を中心に、代表的な多変量解析法を学びます。複数の変数の因果関係やデータの構造を分析し、仮説に対する結論を導き出す方法として様々な多変量解析法が開発されています。講義では実際にデータを加工します。到達目標：社会現象等に関する概念モデルの計量的分析法を習得することを目的とします。</p>	<p>多変量解析法による仮説検証の醍醐味を味わい、分析の面白さや視野の広がりを体感しましょう。</p>
到達目標	<p>授業は次の3ステップを経て、計量モデルを用いた分析法を学び、コンピュータを用いて実際に分析することのできる能力を習得します。1) 多変量解析を学ぶために、数理統計学の理論的基礎が理解できること。統計パッケージソフト(SPSS)を用いてデータを処理しながら統計の基礎を復習します。2) 各々の多変量解析の特性と利用上の留意点が理解できること。社会調査データを用いて分析実習を行います。SPSSによる分析手順と結果の解釈法、分析結果の記述方法を実践的に学びます。3) 最後に、履修生の研究テーマに関する先行研究のなかから、授業で紹介した多変量解析法を用いた実証的研究を選定し、論文の読解を行います。仮説の構築、適切なデータ処理、結果の記述や考察までの「データ分析の流れ」が理解できるようになります。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	データの種類と多変量解析法の使い分け、統計パッケージソフトの基本的操作	テキスト等の通読
	2	同上	前回講義の復習
	3	多変量データ行列と基本統計量（分散と共分散）、因果と相関の違い	テキスト等の通読
	4	同上	前回講義の復習
	5	推定と仮説検定、サンプルと母集団について	PCによるデータ加工の復習
	6	クロス表の分析（1）独立性の検定	同上
	7	クロス表の分析（2）多重クロス表のログリニア分析	同上
	8	分散分析（1）平均と分散、交互作用	同上
	9	分散分析（2）2因子の相互作用、一般線形モデルとは	同上
	10	重回帰分析（1）回帰分析の基本、モデルの評価	同上
	11	重回帰分析（2）回帰モデルの比較検討、分析時の注意点、結果の記述方法（パス図）	同上
	12	回帰分析の応用-独立変数に質的変数を含んだ回帰分析	同上
	13	ロジスティック回帰分析（1）ロジット、係数の推定と検定、モデルの評価と解釈	同上
	14	ロジスティック回帰分析（2）モデルの比較検討、分析時の注意点	同上
15	多変量解析法を用いた原著論文の読解、期末レポート課題の発表	同上	
16			

テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は、履修生の学習歴を聞いてから選定します。また、分析に必要なデータや操作マニュアルを、電子ファイルで配布します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○太郎丸博 「人文科学 カテゴリカルデータ解析」ナカニシヤ出版 ○村瀬洋一ほか共編「SPSSによる多変量解析」オーム社 ○岩井紀子ほか「調査データ分析の基礎：JGSSデータとオンライン集計の活用」有斐閣 ○数理社会学会 監修 「社会の見方、測り方：計量社会学への招待」勁草書房
----------------	--

学びの手立て	<p>1) 第1回目の授業で受講生の関心などを共有し、教科書や学習内容を決定するので、必ず出席してください。</p> <p>2) 分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要です。授業はすべて分析実習をとまなうので、できるだけ欠席はしないこと。</p> <p>3) Excelで集計表を作成した経験があることが望ましい。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎します。</p>
--------	--

評価	<p>平常点:30%、宿題の提出:30%、期末レポート:40%</p> <p>平常点：毎講義でのコメントペーパー提出 宿題の提出：講義中で課題を指示する 期末レポート：講義中で説明する</p>
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	植民地社会特論 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 晴美	1年	授業前後に教室で対応する。それ以外では、自宅メール (h-unai@nifty.com) へ。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1879年、明治政府による琉球併合（琉球処分＝廃藩置県）によって、琉球国は沖縄県として日本の近代国民国家に組み入れられたが、沖縄近現代史が植民地主義、帝国主義の所産として歩まされたプロセスを、アジアという枠組みの中から批判的に検証していく。	数冊のテキストと画像を使った講義、報告、意見交換の形式をとる。

到達目標
①講義やテキストを参考に、自ら問いを立て、主体的に説明ができるようにする。 ②修士論文の執筆に向け、理論的構築に役立てるようにする。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	植民地主義とは何か（希望する文献の持ち込み可）	参考文献①②、配付プリントの読了
	3	〃	〃
	4	「琉球処分」と旧慣温存策	参考文献④の関連項目読了
	5	天皇制国家への流入ー日本的アイデンティティの形成	〃
	6	〃	参考文献⑤の関連項目読了
	7	戦争への道ー皇民化、軍国主義と朝鮮人の来沖	プリントを事前に読んでくること
	8	〃	〃
	9	沖縄戦が意味するものー近代史の総決算として	身近の戦争体験を聞く
	10	アメリカ帝国の植民地へー米軍基地をめぐる人々の動向	配付プリント、参考文献⑥の読了
	11	〃	〃
	12	「済州島4・3事件」を考える	配付プリントを読了
	13	〃	〃
	14	日米の帝国支配の下で	配付プリントを事前に読むこと
15	〃	〃	
16	おさらい		

テキスト・参考文献・資料など
①本橋哲也『ポストコロニアリズム』岩波新書、2005②小森陽一『ポストコロニアル』岩波書店、2001③日本平和学会編『平和研究 No.42、46、47』早稲田大学出版部、2014、2016④金城正篤他『沖縄県の百年』山川出版、2005⑤沖縄県文化振興会史料編集室編『沖縄県史 各論編第5巻 近代』沖縄県教育委員会、2011⑥鳥山淳『沖縄／基地社会の起源と相克 1945ー1956』勁草書房、2013⑦その他

学びの手立て
課題のテキストを事前に読み、理解を深めること。課題文献の読了

評価
この講義を通して修論にどう反映させられるか、口頭、文章で確認する。

学びの継続
次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	植民地社会特論Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 晴美	1年	授業終了後に教室で対応する	

学びの準備	ねらい 沖縄が日本の植民地として近代国民国家建設に組み込まれていくプロセスで、「日本人」化された沖縄の女性たちがどのように“主体性”を構築していったか、ポストコロニアル・フェミニズムの視点から、欧米、東アジアの女性を取りまく環境をも視野におさめながら「戦争と性」について考察する。	メッセージ 数冊のテキストと画像を使った講義、報告、意見交換の形式をとる。
	到達目標 ①講義やテキストを参考に、自ら問いを立て、主体的に説明ができるようにする。 ②修士論文の執筆にむけ、理論的構築に役立てるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	プリント（テキスト）配付
	2	フェミニズム理論とジェンダー	プリントを事前に読んでくること
	3	家父長制と二分された女性たち—“淑女”と“娼婦”	〃
	4	ポストコロニアル・フェミニズムと沖縄女性	参考文献①を読了
	5	〃（宗主国フェミニストの視座）	参考文献②を読了
	6	「戦争とジェンダー」	参考文献③を読了
	7	〃	〃
	8	戦争と「性」①沖縄における日本軍「慰安婦」制度	プリントを事前に読んでくること
9	〃 ②「集団自決」とジェンダー	〃	
10	女性は戦争にどう加担したか（日本女性）	〃	
11	〃（ドイツ女性）	参考文献④を読了	
12		〃	
13	インドにみる女性への性暴力と女性たちの取り組み	参考文献⑤を読了	
14	〃	〃	
15	沖縄における軍隊の構造的暴力	プリントを事前に読んでくること	
16	女性問題解決にむけての国際的ネットワークの形成	〃	
	テキスト・参考文献・資料など ①宮城晴美他『沖縄にみる性暴力と軍事主義』御茶ノ水書房、2017②女性・戦争・人権学会編集委員会『女性・戦争・人権 第16号』2018③若桑みどり『戦争とジェンダー』大月書店、2005④ウェンディー・ロワー／武井彩佳監訳『ヒトラーの娘たち—ホロコーストに荷担したドイツ女性』明石書店、2016⑤ウルワシー・プターリア／藤岡恵美子訳『沈黙の向こう側』明石書店、2002⑥レギーナ・ミュールホイザー／姫岡とし子監訳『戦場の性—独ソ戦下のドイツ兵と女性たち』岩波書店、2015、⑦『沖縄の日本軍慰安所と米軍の性暴力』わたしの戦争と平和資料館、2014		
	学びの手立て 事前にテキストを読み、講義の際に報告ができるよう準備すること。		
	評価 この講義を通して修論にどう反映させられるか、口頭、文章で確認する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

南島の民俗文化を理解するための地理学的方法を習得し、それを生かした地理教材分析の意義と方法を学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理教育学特論	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講は、南島地域における地理的特性を学びながら、地理教育に必須の地図資料の扱い方やフィールドワークの方法など、地理的技能を高める講義を行う。とくに前近代から現代まで作成された地図資料の性格を吟味しながら、地理教材作成に繋げる方法を検討する。	南島の民俗文化について関心があり、それを地理的特性に関係させて理解したいと考える学生の受講を歓迎します。また地理教育の方法を、学校現場ばかりではなく、社会教育の現場で活用したい学生の参加も歓迎します。
到達目標	①地理学の方法と地理教育の関係について、南島地域の地理的特性を学ぶ中で理解を深める。②地図資料の扱い方、フィールドワークの方法などの地理的技能を高めることで、南島地域における地理教材作成の方法を習得する。③南島地域の地理的性格を、民俗文化を理解するための中心に位置づける。	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>地理学と地理教育</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>地理学の方法と地理教育の関係</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>系統地理学と地誌学(1)－沖縄本島を事例に－</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>系統地理学と地誌学(2)－宮古諸島を事例に－</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>系統地理学と地誌学(3)－八重山諸島を事例に－</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>地図の読解と利用方法(1)－地形図－</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>地図の読解と利用方法(2)－大正期地形図－</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>地図の読解と利用方法(3)－地籍図・国土基本図－</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>地図の読解と利用方法(4)－琉球国絵図－</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>地理的技能と地理教育(1)－空中写真の判読－</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>地理的技能と地理教育(2)－景観分析の方法－</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>地理的技能と地理教育(3)－本部半島のフィールドワーカー</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>南島における地理教育の方法</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>南島における地理教育の実践</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス		2	地理学と地理教育		3	地理学の方法と地理教育の関係		4	系統地理学と地誌学(1)－沖縄本島を事例に－		5	系統地理学と地誌学(2)－宮古諸島を事例に－		6	系統地理学と地誌学(3)－八重山諸島を事例に－		7	地図の読解と利用方法(1)－地形図－		8	地図の読解と利用方法(2)－大正期地形図－		9	地図の読解と利用方法(3)－地籍図・国土基本図－		10	地図の読解と利用方法(4)－琉球国絵図－		11	地理的技能と地理教育(1)－空中写真の判読－		12	地理的技能と地理教育(2)－景観分析の方法－		13	地理的技能と地理教育(3)－本部半島のフィールドワーカー		14	南島における地理教育の方法		15	南島における地理教育の実践		16	まとめ		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	ガイダンス																																																				
2	地理学と地理教育																																																				
3	地理学の方法と地理教育の関係																																																				
4	系統地理学と地誌学(1)－沖縄本島を事例に－																																																				
5	系統地理学と地誌学(2)－宮古諸島を事例に－																																																				
6	系統地理学と地誌学(3)－八重山諸島を事例に－																																																				
7	地図の読解と利用方法(1)－地形図－																																																				
8	地図の読解と利用方法(2)－大正期地形図－																																																				
9	地図の読解と利用方法(3)－地籍図・国土基本図－																																																				
10	地図の読解と利用方法(4)－琉球国絵図－																																																				
11	地理的技能と地理教育(1)－空中写真の判読－																																																				
12	地理的技能と地理教育(2)－景観分析の方法－																																																				
13	地理的技能と地理教育(3)－本部半島のフィールドワーカー																																																				
14	南島における地理教育の方法																																																				
15	南島における地理教育の実践																																																				
16	まとめ																																																				
テキスト・参考文献・資料など	特定のテキスト・資料などは指定しないが、講義中に参考文献を紹介する。																																																				
学びの手立て	日頃から南島（沖縄）に関する基礎的な文献を読んでおくことと、授業では毎回、配布される資料を読んで参加すること。																																																				
評価	出席を重視するが、南島地域に関する地理教材のレポートを課して、総合的に評価する。																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名 南島芸能特論 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -波照間 永吉	前期	金 5	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 組踊テキストを原本コピーを用いて読んでいく。その上で、組踊詞章の発音、語彙の解釈、詞章全文の通釈・鑑賞が出来るようになることを目指す。そのためには変体仮名や漢字の草書体などがしっかりと読めるようになる必要がある。と同時に、琉球古典語についての知識も必要である。	メッセージ 変体仮名や漢字草書体を学ぶことは、新しい文字世界に入ることである。けっして難しいことではない。要は慣れであり、数多く文字にふれることである。また、組踊語をととして琉球語についての知識も学んでもらいたい。この講座の学習を通して琉球古典文学の世界を味わっていただきたい。
	到達目標 この講座では琉球古典語による作品を読み、組踊という琉球古典芸能への知識を深めることを目指している。組踊はユネスコの世界無形文化遺産にも登録される琉球・沖縄の貴重な文化である。本講座はこのような文化への理解を深める糸口となるだろう。また、変体仮名・漢字草書体の読解能力を身に着けることは、大学院を修了して地域の古い文献の調査事業に従事するとき、必ずや有効な技術となる筈である。役に立つスキルを身につけて欲しい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	琉球文学と組踊について講義。使用する辞典類の解説も行う。
	2	組踊本テキストの解説と作品解説。変体仮名について「字典」で学ぶ。
	3	組踊テキストの講読。
	4	組踊テキストの講読。
	5	組踊テキストの講読。
	6	組踊テキストの講読。
	7	組踊見学。
	8	組踊テキストの講読。
	9	組踊テキストの講読。
	10	組踊テキストの講読。
	11	組踊テキストの講読。
	12	組踊テキストの講読。
	13	組踊テキストの講読。
	14	組踊テキストの講読。
	15	組踊テキストの講読。
16	予備日（補講日）	
		時間外学習の内容
		辞典類の準備・くずし字の翻字
		くずし字の翻字と語義の調べ
		くずし字の翻字と語義の調べ
		くずし字の翻字と語義の調べ
		くずし字の翻字と語義の調べ
		くずし字の翻字と語義の調べ
		くずし字の翻字と語義の調べ
		くずし字の翻字と語義の調べ
		くずし字の翻字と語義の調べ
		くずし字の翻字と語義の調べ
		IIに向けた取り組み

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「尚家組踊集」の中から「二山和睦」を取り上げる。テキストはコピーを準備する。 ・参考文献は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 『沖縄古語大辞典』沖縄古語辞典編集委員会 角川書店 1995年 『沖縄語辞典』国立国語研究所 大蔵省印刷局 1963年 『伊波普猷全集』（第3巻）伊波普猷 平凡社 1974年 『近世古文書解説字典』若尾俊平・浅見恵・西口雅子編 柏書房 1972年。本書は必携（購入のこと） <p>※国語辞典・古語辞典（持ち運びの出来る程度のものでよい）</p>
----	--

学びの手立て	<p>組踊を初めとする琉球・沖縄の芸能に数多くふれておいてほしい。講義の一環として組踊の舞台を見学する機会を設定するが、それ以外にもビデオやその他の媒体で沖縄の芸能に親しんでおいて欲しい。それと、変体仮名や漢字草書体になれない間にも習もなかなか難しいと思われるが、数多く触れることによって、新しい知見が得られるはずである。是非、困難に立ち向かって欲しい。</p>
--------	---

評価	<p>本講義では、組踊テキストを読み、組踊語彙の語義を説明し、通釈・鑑賞することが出来ることを目指す。従って上記の作業が十分にできるようになったかを評価していく。評価の配点としてはレポート40点、平常点60点。レポートはテキスト「二山和睦」の翻字と語釈・通釈をまとめて提出する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「南島文学特論ⅠA・ⅠB」、「南島文学特論ⅡA・ⅡB」、「南島方言学特論Ⅰ・Ⅱ」「南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ」、「南島言語文化特論（集中講義）」等が関連科目である。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 南島芸能特論Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 金 5	単位 2
	担当者 -波照間 永吉	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 組踊テキストを原本コピーを用いて読んでいく。その上で、組踊詞章の発音、語彙の解釈、詞章全文の通釈・鑑賞が出来るようになることを目指す。そのためには変体仮名や漢字の草書体などがしっかりと読めるようになる必要がある。と同時に、琉球古典語についての知識も必要である。	メッセージ 変体仮名や漢字草書体を学ぶことは、新しい文字世界に入ることである。けっして難しいことではない。要は慣れであり、数多く文字にふれることである。また、組踊語をととして琉球語についての知識も学んでもらいたい。この講座の学習を通して琉球古典文学の世界を味わっていただきたい。
	到達目標 この講座では琉球古典語による作品を読み、組踊という琉球古典芸能への知識を深めることを目指している。組踊はユネスコの世界無形文化遺産にも登録される琉球・沖縄の貴重な文化である。本講座はこのような文化への理解を深める糸口となるだろう。また、変体仮名・漢字草書体の読解能力を身に着けることは、大学院を修了して地域の古い文献の調査事業に従事するとき、必ずや有効な技術となる筈である。役に立つスキルを身につけて欲しい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	2	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	3	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	4	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	5	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	6	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	7	組踊見学。	くずし字の翻字と語義の調べ
	8	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	9	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	10	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	11	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	12	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	13	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
	14	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ
15	組踊テキストの講読。	くずし字の翻字と語義の調べ	
16	予備日（補講日）	くずし字の翻字と語義の調べ	
実践	テキスト・参考文献・資料など ・「尚家組踊集」の中から「義臣物語」を取り上げる。テキストはコピーを準備する。 ・参考文献は次のとおり。『沖縄古語大辞典』沖縄古語辞典編集委員会 角川書店 1995年 『沖縄語辞典』国立国語研究所 大蔵省印刷局 1963年『伊波普猷全集』（第3巻）伊波普猷 平凡社 1974年 『近世古文書解読辞典』若尾俊平・浅見恵・西口雅子編 柏書房 1972年。本書は必携（購入のこと） ※国語辞典・古語辞典（持ち運びの出来る程度のものでよい）		
	学びの手立て 組踊を初めとする琉球・沖縄の芸能に数多くふれておいてほしい。講義の一環として組踊の舞台を見学する機会を設定するが、それ以外にもビデオやその他の媒体で沖縄の芸能に親しんでおいて欲しい。それと、変体仮名や漢字草書体になれない間は予習もなかなか難しいと思われるが、数多く触れることによって、新しい知見が得られるはずである。是非、困難に立ち向かって欲しい。		
	評価 本講義では、組踊テキストを読み、組踊語彙の語義を説明し、通釈・鑑賞することが出来ることを目指す。従って上記の作業が十分にできるようになったかを評価していく。評価の配点としてはレポート40点、平常点60点。レポートはテキスト「義臣物語」の翻字と語釈・通釈をまとめて提出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「南島文学特論ⅠA・ⅠB」、「南島文学特論ⅡA・ⅡB」、「南島方言学特論Ⅰ・Ⅱ」「南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ」、「南島言語文化特論（集中講義）」等が関連科目である。
-------	---

※ポリシーとの関連性

1. 南島文化の専門的な知識を系統的に深めてその課題を見出し、解決に向けて対話的な指導を行う特殊研究科目の提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島言語文化特殊研究 I	通年	火 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の民俗芸能・古典芸能（宮廷芸能）・商業芸能（沖縄芝居）は、ジャンルは異なるものの密接な関係性があることを考慮し、琉球語及び琉球文で育まれた芸能について考える。	メッセージ 沖縄の祭り、御嶽、首里城等のグスクなどを見学して欲しい。
	到達目標 沖縄の芸能を通して、琉球沖縄の風土・精神性について考えることができること。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回 神歌と踊り 第2回 近代における沖縄の民俗芸能概説 第3回～第8回 民俗芸能（村踊り） 竹富島の種子取際、名護市屋部の八月踊り、多良間島の八月踊り、黒島の豊年祭、小浜島の結願祭、伊江島の村踊りなどのビデオ鑑賞を行いつつ、それぞれのムラにおける民俗芸能について考える。 第9回 沖縄芝居の誕生 第10回～第15回 雑踊り及び沖縄歌劇 「泊阿嘉」「奥山の牡丹」「薬師堂」「伊江島ハンドー小」などの近代沖縄芸能について考える。 第16回 全体のまとめ、レポート提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：なし 参考文献：矢野輝雄著『沖縄芸能史話』</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>沖縄の祭りと信仰、御嶽と首里城等の景観などについて調査し、芸能のあり方について考える。</p>
	<p>評価</p> <p>レポート・出席・発表内容</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島言語文化特殊研究 I	通年	月 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島で話されている琉球語諸方言の研究に取り組み、その構造を明らかにする。琉球語研究が琉球文学の読解に結びつくことにも注意をはらう。さらに、危機言語とされる琉球語の再生のために必要な試みについて考える。	メッセージ 院生は各人のテーマに従い、修士論文の枠組を構築する。担当教員は、適宜、修論指導を行う。なお、機会をみて、方言調査等のフィールドワークを行う予定である。
	到達目標 琉球語諸方言を調査・研究することができ、それを基盤として学术论文が書けるようになる。	

学びの準備	到達目標 琉球語諸方言を調査・研究することができ、それを基盤として学术论文が書けるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	2	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	3	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	4	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	5	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	6	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	7	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	8	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	9	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	10	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	11	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	12	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	13	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	14	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	15	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	16	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	17	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	18	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	19	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	20	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	21	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	22	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	23	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	24	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	25	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	26	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	27	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	28	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	29	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
30	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成・準備	
31	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成・準備	
		総括	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。</p> <p>『沖縄古語大辞典』（沖縄古語大辞典編集委員会[編]、1995年、角川書店）。</p> <p>その他、適宜、指示する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>毎回、レジュメを作成、準備すること。</p>
	<p>評価</p> <p>研究レポートを提出する。</p> <p>発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行う授業への積極的な関わり方を評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>南島言語文化特殊研究Ⅱ、南島文学特論ⅡA、ⅡB。</p>

※ポリシーとの関連性 1. 南島文化の専門的な知識を系統的に深めてその課題を見出し、解決に向けて対話的な指導を行う特殊研究科目の提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島言語文化特殊研究Ⅱ	通年	火6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	2年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖縄の民俗芸能・古典芸能（宮廷芸能）・商業芸能（沖縄芝居）は、ジャンルは異なるものの密接な関係性があることを考慮し、琉球語及び琉球文で育まれた芸能について考える。	沖縄の祭り、御嶽、首里城等のグスクなどを見学して欲しい。

到達目標	沖縄の芸能を通して、琉球沖縄の風土・精神性について考えることができること。
------	---------------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回 オモロと踊り 第2回 宮廷芸能（御冠船踊） 第3回 宮廷芸能の古典化 第4回～第11回 古典組踊詳論 「執心鐘入」「銘苺子」「孝行之巻」「女物狂」「万歳敵討」「花売りの縁」「手水の縁」などを鑑賞し、古典組踊の特質について考える。 第12回 村踊りの組踊 第13回 沖縄芝居と組踊 第14回～第15回 古典舞踊と雑踊り 第16回 全体のまとめ、レポート提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：なし 参考文献：矢野輝雄著『組踊への招待』『組踊を聴く』</p>

学びの手立て	沖縄の祭りと信仰、御嶽と首里城等の景観などについて調査し、芸能のあり方について考える。
--------	---

評価	レポート・出席・発表内容
----	--------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島言語文化特殊研究Ⅱ	通年	月 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島で話されている琉球語諸方言の研究に取り組み、その構造を明らかにする。琉球語研究が琉球文学の読解に結びつくことにも注意をはらう。さらに、危機言語とされる琉球語の再生のために必要な試みについて考える。	メッセージ Ⅱ（修士2年以上）院生は、修士論文の完成に向けて取り組む。担当教員は、適宜、修論指導を行う。なお、機会をみて、方言調査等のフィールドワークを行う予定である。
	到達目標 琉球語諸方言を調査・研究することができ、それを基盤として学術論文が書けるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球語諸方言の概説	レジュメの準備、作成
	2	琉球語諸方言の概説	レジュメの準備、作成
	3	琉球語諸方言の研究史	レジュメの準備、作成
	4	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成、準備
	5	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成、準備
	6	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成、準備
	7	危機言語とその再活性化	レジュメの作成、準備
	8	危機言語とその再活性化	レジュメの作成、準備
	9	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成、準備
	10	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成、準備
	11	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成、準備
	12	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成、準備
	13	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	14	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	15	修士論文についての参考文献の整理	レジュメの作成、準備
	16	修士論文についての参考文献の整理	レジュメの作成、準備
	17	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	18	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	19	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	20	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	21	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	22	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	23	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	24	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	25	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	26	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	27	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	28	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	29	修士論文についての発表および質疑応答	修士論文のまとめ
30	修士論文のまとめ	修士論文のまとめ	
31	修士論文の製本・提出		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。</p> <p>『沖縄古語大辞典』（沖縄古語大辞典編集委員会[編]、1995年、角川書店）。</p> <p>その他、適宜、指示する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>毎回、レジュメを作成、準備すること。</p>
	<p>評価</p> <p>修士論文を提出する。</p> <p>発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行う授業への積極的な関わり方を評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>修士論文中間発表会、修士論文最終発表会、学会での発表。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島史学特論 I A	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	1 年	水曜日 2 限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1 8 世紀前半の那覇や那覇港をめぐる状況に着目し、近世琉球史像の再構築をねらいとします。主な題材として、那覇四町を管轄した親見世の業務記録である「乾隆元年 親見世日記」（『国立台湾大学図書館典蔵 琉球関係史料集成』第 1 巻）を用います。</p>	<p>県内外の博物館や発掘調査現地説明会に足を運んで琉球史のモノや現場に接すること、学内外の研究会やシンポジウムに参加して雰囲気に触れることは研究者としての財産になります。積極的に情報を収集してください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 8 世紀前半の那覇や那覇港をめぐる状況を設定したテーマに沿って理解できるようになる。 ・ 候文（和様漢文）を正確に読み下したうえで、史料の内容および歴史用語を的確に解釈できるようになる。 ・ 日記の本文と収録された文書の関係や構造を理解できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、「親見世日記」と参考文献の紹介	
	2	台湾大学琉球関係古文書と「親見世日記」	
	3	古琉球の那覇と那覇港	
	4	近世琉球の那覇と那覇港	
	5	「親見世日記」の検討①（受講生へ読み下しを割り当て）	
	6	「親見世日記」の検討②（同上）	
	7	「親見世日記」の検討③（同上）	
	8	「親見世日記」の検討④（同上）	
	9	「親見世日記」の検討⑤（同上）	
	10	「親見世日記」の検討⑥（同上）	
	11	「親見世日記」の検討⑦（同上）	
	12	「親見世日記」の検討⑧（同上）	
	13	「親見世日記」の検討⑨（同上）	
14	受講生によるテーマに沿った報告と討議①		
15	受講生によるテーマに沿った報告と討議②		
16			
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト・資料】初回の講義で「親見世日記」のコピーを配布します。図表などの参考資料は適宜配布します。</p> <p>【参考文献】『那覇市史』資料篇第 1 巻 9 近世那覇関係資料（古文書編） 『那覇市史』資料篇第 1 巻 1 2 近世資料補遺・雑纂</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>史料は声を出して読むことで次第に身体になじんできます。その日読み下した箇所を繰り返し音読することをおすすめします。</p>		
	<p>評価</p> <p>史料の検討に取り組む姿勢（60%）と報告の内容（40%）によって総合的に評価する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島史学特論 I B	後期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	1 年	水曜日 2 限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1 8 世紀前半の那覇や那覇港をめぐる状況に着目し、近世琉球史像の再構築をねらいとします。前期に引き続き、主な題材として、那覇四町を管轄した親見世の業務記録である「乾隆元年 親見世日記」（『国立台湾大学図書館典藏 琉球関係史料集成』第 1 巻）を用います。</p>	<p>県内外の博物館や発掘調査現地説明会に足を運んで琉球史をめぐるモノや現場に接すること、学内外の研究会やシンポジウムに参加して雰囲気に触れることは研究者としての財産になります。積極的に情報を収集してください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 8 世紀前半の那覇や那覇港をめぐる状況を設定したテーマに沿って理解できるようになる。 ・ 候文（和様漢文）を正確に読み下したうえで、史料の内容や歴史用語を的確に解釈できるようになる。 ・ 日記の本文と収録された文書の関係や構造を理解できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、「親見世日記」と参考文献の紹介	
	2	台湾大学琉球関係古文書と「親見世日記」	
	3	古琉球の那覇と那覇港	
	4	近世琉球の那覇と那覇港	
	5	「親見世日記」の検討①（受講生へ読み下しを割り当て）	
	6	「親見世日記」の検討②（同上）	
	7	「親見世日記」の検討③（同上）	
8	「親見世日記」の検討④（同上）		
9	「親見世日記」の検討⑤（同上）		
10	「親見世日記」の検討⑥（同上）		
11	「親見世日記」の検討⑦（同上）		
12	「親見世日記」の検討⑧（同上）		
13	「親見世日記」の検討⑨（同上）		
14	受講生によるテーマに沿った報告と討議①		
15	受講生によるテーマに沿った報告と討議②		
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト・資料】初回の講義で前期に読んだ続きの部分から「親見世日記」のコピーを配布します。図表などの参考資料は適宜配布します。</p> <p>【参考文献】『那覇市史』資料篇第 1 巻 9 近世那覇関係資料（古文書編） 『那覇市史』資料篇第 1 巻 1 2 近世資料補遺・雑纂</p>		
学びの手立て	<p>史料は声を出して読むことで次第に身体になじんできます。その日読み下した箇所を繰り返し音読することをおすすめします。</p>		
評価	<p>史料の検討に取り組む姿勢（60%）と報告の内容（40%）によって総合的に評価します。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会特論 I	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	1年	講義時間およびオフィスアワーに随時対応する	

学びの準備	ねらい 沖縄社会の特徴を構成してきた歴史的経緯を理解するために、沖縄戦に至る近代経験に焦点を当てて講義を展開する。	メッセージ
	到達目標 沖縄社会を特徴付けている諸問題について、その歴史的経緯や時代背景を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回～第3回 沖縄の「併合」と統治政策 第4回～第6回 帝国の拡大と差別・同化 第7回～第9回 移民・出稼ぎと同郷意識 第10回～第12回 砂糖経済の行き詰まりと沖縄救済論 第13回～第15回 生活改善から戦時動員へ
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定せず、テーマごとに輪読する文献を提示する。

学びの実践	学びの手立て
	評価 輪読するテキストに関する報告内容と議論への参加姿勢によって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会特論Ⅱ	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	1年	オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備	ねらい 沖縄社会の特徴を構成してきた歴史経緯を理解するために、戦場体験から今日に至る現代経験に焦点を当てて講義を展開する。	メッセージ
	到達目標 沖縄社会を特徴付けている諸問題について、その歴史的経緯および時代背景を理解する。	

学びの準備	ねらい 沖縄社会の特徴を構成してきた歴史経緯を理解するために、戦場体験から今日に至る現代経験に焦点を当てて講義を展開する。	メッセージ
	到達目標 沖縄社会を特徴付けている諸問題について、その歴史的経緯および時代背景を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回～第3回 地上戦と基地建設 第4回～第6回 米軍占領と基地社会 第7回～第9回 復興と復帰 第10回～第12回 復帰をめぐる意識と思想 第13回～第15回 軍隊と性暴力をめぐる問い
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定せず、テーマごとに輪読する文献を提示する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定せず、テーマごとに輪読する文献を提示する。
	学びの手立て

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定せず、テーマごとに輪読する文献を提示する。
	学びの手立て

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定せず、テーマごとに輪読する文献を提示する。
	学びの手立て

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会文化特殊研究Ⅰ	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	1年	メールと授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、社会現象としての人口・家族の変動を主なテーマとし、社会文化領域にて修士論文を執筆するための基盤づくりとして、社会科学における学術論文を執筆するための基礎的な作業方法を学びながら、①研究テーマの設定、②先行研究の整理・検討、③研究の目的・意義の検討、④調査研究方法の検討を行います。</p>	<p>自らの問題設定に基づいて、真摯に知的格闘に挑んでください。</p>
到達目標	<p>①前期は、研究テーマの設定、先行研究の整理・検討、研究の目的・意義の検討を到達目標とします。 ②後期は、参考文献リスト作成、研究目的の再検討、調査研究方法の決定、および研究の進捗状況報告を重ね、修士論文の概要を作成することを目標とします。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>【前期】</p> <p>①応募時の研究計画書と卒業論文の知見を整理し、研究テーマを設定する。 ②先行研究をリストアップ、その内容・意義・課題を報告し、体系的に整理する。 ③先行研究の整理に基づいて、研究の目的・意義を検討する。 ④夏期休暇中の研究計画を提出する。</p> <p>【後期】</p> <p>①夏期休暇中の研究計画の実施状況と研究成果を報告する。 ②先行研究の整理に基づいて、参考文献リストを作成し、研究目的を再検討する。 ③研究目的の達成に必要なデータ・資料を検討し、調査研究手法を決定する。 ④研究の進行状況を逐次報告する。 ⑤1年間の研究の進行状況をまとめ、修士論文の概要を作成する。 ⑥春期休暇中の研究計画を提出する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに応じて適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>授業への参加姿勢、各課題への取組み、報告内容、修士論文の作成過程によって総合的に評価します。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>南島特殊研究Ⅱ（担当・澤田佳世）</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会文化特殊研究 I	通年	火7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	1年	オフィスアワーと学内メールで随時対応する	

学びの準備	ねらい 修士論文執筆に向けた準備段階として、学術論文を作成するための基礎的な作業方法を身に付ける。各受講者の研究テーマに沿って研究計画を作成し、具体的な調査および資料収集を進める。	メッセージ
	到達目標 修士論文の作成に向けたテーマ設定と計画作成を進め、必要な調査を主体的に行うための準備を完了する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ①研究計画書を作成し、1年間の作業スケジュールを確認する。 ②テーマに関連する論文のリストアップし、その内容を把握する。 ③テーマに適った調査および資料収集方法を考察する。 ④夏期休暇中の具体的な研究計画を作成する。 ⑤夏期休暇中の研究成果をまとめる。 ⑥研究の進捗状況と課題を把握し、論文構想の具体化を図る。 ⑦修士論文の章立て案を作成する。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て
	評価 報告内容および議論への参加によって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会文化特殊研究Ⅱ	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	2年	メールと授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、社会現象としての人口・家族の変動を主なテーマとする「特殊研究Ⅰ」での成果を引きつぎながら、各自設定した研究テーマについて、①研究史上での位置づけ・意義・独自性の確認、②論文全体構成の確定、③中間発表、④草稿の逐次提出と推敲を経て、修士論文を完成させます。	自らの問題設定に基づいて、真摯に知的格闘に挑んでください。

学びの準備	到達目標
	①前期は、研究の先行研究上の位置づけと意義・独自性の確認、全体構成の確定、中間発表、細部見直し・今後の課題確認を到達目標とします。 ②後期は、指導教員への各章の草稿提出、コメントに基づく論文推敲、査読教員への草稿提出、コメントに基づく修正を経て、修士論文の完成と最終試験・口頭発表を行うことを最終目標とします。

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>【前期】</p> <p>①春期休暇中の研究計画の実施状況と研究成果の報告 ②研究の研究史上での位置づけを再確認、その意義・独自性について報告 ③中間発表に向けて論文の全体構成を確定 ④中間発表での指摘をふまえ細部の見直し、今後の課題の確認 ⑤夏期休暇中の具体的な研究計画の作成</p> <p>【後期】</p> <p>①夏期休暇中の研究計画の実施状況と研究成果の報告 ②論文の各章の草稿を逐次指導教員に提出、チェックを受ける ③指導教員からのコメントに基づいて論文を推敲 ④論文全体の草稿を作成、査読教員の助言を受け修正 ⑤完成論文の提出前に指導教員に提出、最終的なチェックを受けて本提出 ⑥完成論文の提出後、最終試験と発表会の準備を実施</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに応じて、適宜紹介します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
	授業への参加姿勢、各課題への取組み、報告内容、修士論文作成過程および提出論文の内容によって総合的に評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島社会文化特殊研究Ⅰ（関連科目・澤田佳世担当）
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会文化特殊研究Ⅱ	通年	火7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	2年	オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備	ねらい 前年度の研究成果を確認しながら修士論文の執筆に向けた取り組みを進め、報告を重ねながら論文として完成させる。	メッセージ
	到達目標 修士論文の作成に不可欠な課題およびその進捗状況を的確に把握し、必要な調査と記述に取り組んで、論文を完成させる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ①前年度の取り組みをふまえて論文提出までの作業計画を作成する。 ②中間報告に向けて論文の構成を確定させる。 ③中間報告での指摘をふまえて細部の見直しを行い、夏期休暇中の課題を確認する。 ④夏期休暇中の成果をまとめ、論文執筆を進める。 ⑤指導教員のチェックを受けながら論文の完成度を高める。 ⑥下書き原稿を提出し、本提出に向けて手直しを行う。 ⑦本提出後、最終試験と発表会の準備を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て
	評価 報告内容および提出論文によって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史文化特殊研究 I	通年	土 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	1年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島に形成された先史、原史文化の諸要素を個々に取りあげ、周辺地域との交流がどの様に関与したかを考える。その際には隣接科学の多様な研究成果をも取り入れる。修士論文の作成に必要な専門語や基本的な考古学的思考法の概念について整理を行う。	メッセージ
	到達目標 研究史の理解、立論の合理性と適格性、実証の正確性を自己のものとする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 修士論文の作成に必要な専門語や基本的な考古学的思考法の概念について整理を行う。 第1週 講義の趣旨、進め方などのガイダンス 第2週～第7週 新石器文化に関する多様な研究報告を素材に講義 第8週～第15週 問題の背景説明 受講者による発表と討議
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に提示する。
	学びの手立て 関連する様々学会、シンポジウムに積極的に参加すること。
	評価 各時限の報告（30%）、発言（20%）、レポートの内容（50%）によって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科学の社会学、民俗（民族）学、心理学など、関連科学を広く学ぶ。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史文化特殊研究Ⅱ	通年	火6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	2年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島に形成された先史、原史文化の諸要素を個々に取りあげ、周辺地域との交流がどの様に関与したかを考える。その際には隣接の科学の多様な研究成果をも取り入れることもする。	メッセージ
	到達目標 研究史の理解、立論の合理性と適格性、実証の正確性を自己のものとする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	修士論文のテーマ・課題の確定	
	3	修士論文の章立て確定	
	4	関係論文リストの作成1	
	5	関係論文リストの作成2	
	6	関係論文の購読1	
	7	関係論文の購読2	
	8	関係資料の分析1	
	9	関係資料の分析2	
	10	修士論文の中間報告 序章	
	11	修士論文の中間報告 第1章の内容	
	12	修士論文の中間報告 第1章の課題	
	13	修士論文の中間報告 第2章の内容	
	14	修士論文の中間報告 第2章の課題	
	15	修士論文の中間報告 第3章の内容	
	16	修士論文の中間報告 第3章の課題	
	17	修士論文の中間報告 第4章の内容	
	18	修士論文の中間報告 第4章の課題	
	19	修士論文の中間報告 第5章の内容	
	20	修士論文の中間報告 第5章の課題	
	21	修士論文の中間報告 結語の内容と課題	
	22	修士論文の中間報告 序章の再検討	
	23	修士論文の中間報告 第1章の再検討	
	24	修士論文の中間報告 第2章の再検討	
	25	修士論文の中間報告 第3章の再検討	
	26	修士論文の中間報告 第4章の再検討	
	27	修士論文の中間報告 第5章の再検討	
	28	修士論文の中間報告 結語の再検討	
	29	修士論文の中間報告 脚注などの吟味	
30	テーマの発展性について		
31	テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義時に提示する。 随時、講義時に紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 関連する様々学会、シンポジウムに積極的に参加すること。</p>
学 び の 継 続	<p>評価 レポートを提出し、授業における討議などを合わせて評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科学の社会学、民俗（民族）学、心理学など、関連科学を広く学ぶ。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史文化特論 I	前期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	1年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球列島に展開した先史文化について講義を行う。旧石器時代については、アフリカの礫器文化から取りあげ、東進する伝播過程のなかで沖縄の石器文化を位置づけ紹介する。また、新石器時代についても、その編年的な大綱はできつつあるが、その系譜について幾つかの議論があることを取りあげる。さらに、旧・新石器時代、編年、文化など考古学用語における概念の形成過程について確認して</p> <p>到達目標</p> <p>琉球列島の先史、原史文化の研究動向と、問題点を正確に認識した上で、広い視野から学界の進展に寄与しうる課題を発見し、その課題に関する研究論文を作成することができる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>修士論文の作成に必要な研究方法を習得し、他地域、他分野からの理解と知識を広げることを認識、実践してもらう。</p> <p>第1週 講義の趣旨、進め方などのガイダンス 第2週～第7週 旧石器文化の東進と沖縄 第8週～第15週 問題の背景説明 受講者による発表と討議</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義時に提示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>関連する様々学会、シンポジウムに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価</p> <p>各時限の報告（30%）、発言（20%）、レポートの内容（50%）によって評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史文化特論Ⅱ	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	1年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球列島に展開した先史・原史文化について講義を行う。とくに新石器時代（縄文時代、弥生～平安並行時代）と原史時代（グスク時代）の編年的な大綱は提示されているが、その系譜や編年観について幾つかの議論があることを取りあげ講義を行う。	

到達目標	正確な概念把握、立論の合理性と適格性、実証の正確性など科学的な表現を身につける。
------	--

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>修士論文の作成に必要な研究方法、また、他地域、他分野からの理解と知識を広げることを意識してもらう。</p> <p>第1週 講義の趣旨、進め方などのガイダンス 第2週～第7週 新石器文化や原史文化の系譜とその地域的展開 第8週～第15週 問題の背景説明 受講者による発表と討議</p>
	テキスト・参考文献・資料など 適宜指示する。
	<p>学びの手立て</p> <p>関連する様々学会、シンポジウムに積極的に参加すること。</p>
評価	各時限の報告（30%）、発言（20%）、レポートの内容（50%）によって評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>人間の社会文化に関わる科学をできるだけ受講する。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

専門職業人として社会貢献できる能力を習得させるための専門的な知識と実践的な経験に基づく資格科目の提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島地理学特論 I	前期	木 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人文地理学の基礎的な調査方法について学習し、実際の島嶼地域におけるフィールド実習を実施する中で、実践的な調査の企画・設計、調査結果の分析、集計を経験し、自ら調査できる技術習得を目指す。今年度の実習地域としては、次年度に引き続き、沖縄県国頭村を研究対象地域としてとりあげ、そこにおける人々の生業と社会組織、地域経済の振興についての地域調査を予定している。	地理的なものの見方、考え方を取得するように心がけてください。
到達目標	地理的な調査手法、分析、地理情報システム(GIS)の扱い方をマスターしてもらう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学調査入門 地理学調査とは	配布プリントの復習
	2	調査倫理と調査企画・設計(1)	配布プリントの復習
	3	調査企画・設計(2)、仮設構成	配布プリントの復習
	4	調査票の作成(1)	配布プリントの復習
	5	調査票の作成(2)	配布プリントの復習
	6	本島内の地域調査(1) サンプリング、フィールドの選定の実際	配布プリントの復習
	7	本島内の地域調査(2) 実査(1)	調査準備
	8	本島内の地域調査(2) 実査(2)	調査準備
	9	地域調査結果データの整理(1) (エディティング、コーディング)	調査データの整理
	10	地域調査結果データの整理(2) (データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成)	調査データの整理
	11	地域調査結果データの整理(3) (量的分析とグラフ作成)	調査データの整理
	12	地域調査結果データの整理と質的な分析	調査データの整理
	13	報告書作成と地域調査報告会準備 (1)	レポート執筆
14	報告書作成と地域調査報告会準備 (2)	レポート執筆	
15	地域調査報告会	報告会	
16	全体のまとめ		
テキスト・参考文献・資料など	浮田典良『ジオ・パルNEO 地理学便利帳』海青社、2017年。後藤真太郎・谷 謙二他『新版 MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座－フリーソフトでここまで地図化できる－』古今書院 2007年。谷 謙二『フリーGISソフトMANDARAパーフェクトマスター』古今書院 2011年。 授業の中でその都度紹介する。		
学びの手立て	積み上げ式の授業なので、休まないようにしてください。		
評価	提出物(論文・レポートなど)と出席状況で総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島地理学特論 II
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島地理学特論Ⅱ	後期	木7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 南島地理学Ⅱでは、南島地理学Ⅰを基本として、地理情報システムのしくみとその操作方法について学習する。最終的には、各種分布図が独力で作業できるようになることを目標としている。使用ソフトは「MANDARA」、「カシミール」、「地図太郎」など。	メッセージ 地理的なものの見方、考え方を習得するように心がけてください。
	到達目標 地理情報システム(GIS)の基本習得を目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地理情報システムとは①カシミール活用法	プリントによる復習
	2	地理情報システムとは②カシミール活用法	プリントによる復習
	3	MANDARAの特色と地図データーさまざまな地図の紹介ー	プリントによる復習
	4	MANDARAで地図をつくろう①階級区分図をつくる	プリントによる復習
	5	MANDARAで地図をつくろう②階級区分を考える	プリントによる復習
	6	コンビニエンスストアの分布図ー競合店の多いコンビニを探すー	プリントによる復習
	7	東京都の地価分布図の作成ー国土数値情報の地価公示データの利用ー	プリントによる復習
	8	東京都八王子市の土地利用の変化ー国土数値情報の土地利用メッシュデータの利用ー	プリントによる復習
	9	水質調査マップの作成	プリントによる復習
	10	ヒートアイランドに及ぼす環境パラメータの評価	プリントによる復習
	11	測地系と座標変換について	プリントによる復習
	12	緯度経度の取得方法、政府統計の活用窓口の利用	プリントによる復習
	13	白地図画像の地図データ化、地図太郎の利用①	プリントによる復習
	14	地図太郎の利用②	プリントによる復習
15	地図太郎の利用③	プリントによる復習	
16	まとめ	レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリントを配布する。 MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS入門、谷謙二、古今書院 地図太郎、カシミールソフトの各操作マニュアル		
	学びの手立て 積み上げ式の授業なので、休まないようにしてください。毎回授業で習ったGIS操作方法は必ずPC教室で復習すること。		
	評価 授業の出席率、課題の提出状況によって総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島地理学特論Ⅰ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島文学特論 I A	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1 年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 南島の祈願詞・説話・歌謡・芸能について総合的に考え、修士論文執筆に活用する。	メッセージ 奄美・沖縄・宮古・八重山の祭りの由来伝承や芸能を中心に、民俗学的見地から総合的な研究力を養う。
	到達目標 修士論文執筆に向けての総合力を養う。	

学びの準備	到達目標 修士論文執筆に向けての総合力を養う。
-------	----------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1回 南島言語文化と民俗学 第2回 王府祭祀と伝承 第3回 村落祭祀と由来伝承 第4回 民間祭祀とユタ 第5回～第9回 呪言と歌謡の伝承 第10回～第15回 神話・伝説・昔話・世間話の伝承 第16回 総括とレポート提出
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：その都度指示する。
	学びの手立て 王府祭祀と村落祭祀に関わる暦・陰陽五行・風水等について学ぶこと。
	評価 レポート

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島文学特論 I B	後期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1 年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 南島の祈願詞・説話・歌謡・芸能について総合的に考え、修士論文執筆に活用する。	メッセージ 奄美・沖縄・宮古・八重山の祭りの由来伝承や芸能を中心に、民俗学的見地から総合的な研究力を養う。
	到達目標 修士論文執筆に向けての総合力を養う。	

学びの準備	到達目標 修士論文執筆に向けての総合力を養う。
-------	----------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1回 王府の儀礼と村落祭祀の儀礼 第2回～5回 説話と歌謡 第6回～8回 説話と琉歌 第9回～15回 説話と組踊 第16回 総括とレポート提出
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：その都度指示する。
	学びの手立て 王府祭祀と村落祭祀に関わる暦・陰陽五行・風水等について学ぶこと。
	評価 レポート

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文
-------	---------------------

※ポリシーとの関連性

南島歌謡を正確に分析・解釈できるようになることで、高度な専門性を備えた職業人を養成することにつながる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島文学特論ⅡA	前期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-波照間 永吉	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	南島歌謡などに出てくる単語を分析・整理し、琉球語の文学表現について考察してゆく。また、南島歌謡に出てくる単語を索引化することも視野に入れる。	研究対象となる南島歌謡について考察し、レジュメを準備すること。また、講師が講義において示す作品や参考文献等をよく読んで授業に臨むこと。

到達目標	研究史をふまえつつ、南島歌謡を分析して正確に理解でき、琉球文学として鑑賞できるようになる。
------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	南島歌謡の研究史	参考図書を確認、レジュメ準備
	2	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	3	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	4	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	5	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	6	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	7	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	8	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	9	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	10	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	11	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	12	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	13	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	14	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
15	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備	
16	全体のまとめ	これまでの講義内容の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など 外間守善〔代表〕『南島歌謡大成（全5巻）』（角川書店、1978～1980年）、沖縄古語大辞典編集委員会〔編〕『沖縄古語大辞典』（角川書店、1995年）、国立国語研究所〔編〕『沖縄語辞典』（大蔵省印刷局、1963年）、宮城信勇『石垣方言辞典』（沖縄タイムス社、2003年）、波照間永吉〔監修〕『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版、2003年）		
実践	学びの手立て 研究対象とした歌謡について分析・解釈を行い、毎回レジュメを準備すること。自分なりの問題意識を持って主体的に授業に臨むこと。授業で検討した事項を復習し、索引のもととなる単語表を修正すること。		
実践	評価 ①出席はもちろんのこと、発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行なう授業への積極的な関わり方を評価する。 ②学期末にレポートと索引（データ）を提出すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島文学特論ⅡB、南島芸能論Ⅰ・Ⅱ、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
-------	--

※ポリシーとの関連性

南島歌謡を正確に分析・解釈できるようになることで、高度な専門性を備えた職業人を養成することにつながる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島文学特論ⅡB	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-波照間 永吉	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	南島歌謡などに出てくる単語を分析・整理し、琉球語の文学表現について考察してゆく。また、南島歌謡に出てくる単語を索引化することも視野に入れる。	研究対象となる南島歌謡について考察し、レジュメを準備すること。また、講師が講義において示す作品や参考文献等をよく読んで授業に臨むこと。

到達目標	研究史をふまえつつ、南島歌謡を分析して正確に理解でき、琉球文学として鑑賞できるようになる。
------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期の振り返り	レジュメ準備
	2	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	3	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	4	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	5	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	6	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	7	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	8	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	9	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	10	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	11	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	12	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	13	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
	14	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備
15	南島歌謡の分析と解釈	まとめ、レジュメ準備	
16	全体のまとめ	これまでの講義内容の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 外間守善〔代表〕『南島歌謡大成（全5巻）』（角川書店、1978～1980年）、沖縄古語大辞典編集委員会〔編〕『沖縄古語大辞典』（角川書店、1995年）、国立国語研究所〔編〕『沖縄語辞典』（大蔵省印刷局、1963年）、宮城信勇『石垣方言辞典』（沖縄タイムス社、2003年）、波照間永吉〔監修〕『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版、2003年）		
	学びの手立て 研究対象とした歌謡について分析・解釈を行い、毎回レジュメを準備すること。自分なりの問題意識を持って主体的に授業に臨むこと。授業で検討した事項を復習し、索引のもととなる単語表を修正すること。		
	評価 ①出席はもちろんのこと、発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行なう授業への積極的な関わり方を評価する。 ②学期末にレポートと索引（データ）を提出すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島文学特論ⅡA、南島芸能論Ⅰ・Ⅱ、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島方言学特論 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1 年	研究室番号：5 4 0 2 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球語圏の会話や民話などに出てくる単語を分析・整理し、琉球語の表現について考察してゆく。また、会話や民話などに出てくる単語を索引化することも視野に入れる。	琉球語諸方言が日常的に使用されなくなり、それら言葉の記録と再活性化が急務となっている。この授業では、これまでに記録されたテキストを言語学的に分析して、琉球語に対する知識を深めるとともに、実際に会話や民話の語りなどを再現して、琉球語の再活性化に向けた糸口とする。
到達目標	琉球語諸方言を分析して正確に理解でき、琉球文学として鑑賞できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：琉球語テキストの選択	レジュメ（エクセル）の準備
	2	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備
	3	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備
	4	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備
	5	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備
	6	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備
	7	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備
8	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備	
9	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備	
10	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備	
11	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備	
12	琉球語テキストの文法解析	レジュメ（エクセル）の準備	
13	琉球語テキストの文法解析	再現するための原稿の準備	
14	琉球語テキストの再現	再現するための原稿の準備	
15	琉球語テキストの再現	完成レポート、作品の提出	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。そのほか、授業で適宜指示する。		
学びの手立て	<p>適当な会話集や民話集を選ぶ。各担当者で方言テキストを文節ないしは単語に区切ってエクセルの表に入れ、単語表を作成する。活用語には活用形を入れる欄を設けるなど、表には工夫を施す。これらの作業は各担当者が授業を受けるまでに準備しておく。実際の授業では、各担当者ごとに発表を行い、語の区切り方が正しいか、文法的分析が正しいかなどをチェックする。各担当者は、授業で検討した事項を復習し、単語表を修正する。以上の過程を繰り返し、方言テキストの索引を完成させる。文法解析、意味分析が一通り済み、全体の流れを把握した段階で、できれば会話や民話の語りなどを再現し、ビデオ撮影により記録する。記録したものには字幕を付ける。</p>		
評価	<p>①発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行なう授業への積極的な関わり方を評価する。 ②学期末に索引（データ）、方言による会話や語り（映像資料・字幕付）などを提出する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島方言学特論Ⅱ、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島方言学特論Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>民話を題材にした琉球方言によるデジタル紙芝居に取り組む。琉球方言による音声とデジタル紙芝居の画像に字幕を付け、作品に仕上げ、DVD等に焼き付ける。各自が民話の中のキャストとなり、琉球方言で演じる。琉球語の世界に近づき、琉球語で表現する行為を考えてゆく。</p>	<p>最近では、パソコンのレベルでも、パワーポイントやフラッシュなどのソフトウェアで簡単な映像を作ることが可能になっている。それらの技術と琉球語諸方言を組み合わせることによって、汎用性のある言語作品（言語教材）を作っていくことができる。</p>
到達目標	琉球語諸方言を一つの言語として表現でき、言語作品を構築することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	再現民話の検討	再現したい民話を探す
	2	再現民話の選択	翻訳の方言話者を探す
	3	琉球語への翻訳—台本作成—	翻訳台本の整理
	4	琉球語への翻訳—台本作成—	翻訳台本の整理
	5	翻訳台本の分析	翻訳台本の完成
	6	翻訳台本の分析	方言話者の発音を録音（お手本）
	7	翻訳台本の読み合わせ	方言セリフの発音練習
	8	翻訳台本の読み合わせ	方言セリフの発音練習
	9	配役の決定	方言セリフの発音練習
	10	デジタル紙芝居の絵の作成	方言セリフの発音練習・絵の作成
	11	デジタル紙芝居の絵の作成	方言セリフの発音練習・絵の作成
	12	スタジオ録音	録音テイクの選択
	13	スタジオ録音	録音テイクの選択・編集作業
14	デジタル紙芝居の編集	編集作業	
15	デジタル紙芝居の編集	編集作業	
16	デジタル紙芝居の完成	関係先へ配布	
テキスト・参考文献・資料など	適宜指示する。過去の作品例として宮古語による「豊見氏親ぬ大鯖魚退治」がある（日本語・英語字幕付）。		
学びの手立て	<p>①ある民話の共通語による台本を用意する。その民話が語られた地域の琉球方言に翻訳する（流暢な方言話者をお願いする）。翻訳された琉球方言の台本を分析し、ことばとして十分に理解する。</p> <p>②方言台本の読み合わせを行う（発音練習）。方言台本の配役を決める。デジタル紙芝居の構成・割付を考える。</p> <p>③スタジオで録音を行う。民話シーンの絵を描き、パソコンへ取り込む。</p> <p>④パソコン上で、方言による録音と民話シーンの絵をマッチングさせる。</p> <p>⑤作品完成。試写検討会を行なう。修正版を作成し、提出・配布する。</p>		
評価	前期「南島方言学特論Ⅰ」と同じ。完成した作品を提出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島方言学特論Ⅰ（受講済み）、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗宗教特論 I	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲福 みき子	1年	minafuku@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	南島の民俗研究のなかで、民俗宗教に関する研究の蓄積はきわめて豊富である。伊波普猷・柳田國男・折口信夫をはじめとする先学の成果を通時的に追いつつ、南島民俗宗教の概要の把握に努める。先学の多様な研究の成果から各自の課題設定の手がかりや方法の検討に資する。	沖縄の民俗宗教研究において重要な役割を果たした諸先達を取り上げ、学問的方法、研究内容を時代的な背景を考慮しながら追い、その代表的な論文に触れる。そうした作業を通じて沖縄民俗宗教研究のエッセンスへ接近する。
到達目標	南島の民俗宗教に関する基礎的な事項を学び、それぞれが今後取り組むべき研究課題へのアプローチおよび研究論文の読解法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄民俗研究の展開(1)：近世から明治期の沖縄民俗研究の萌芽	
2	沖縄民俗研究の展開(2)：大正期・昭和期の研究の組織化と進展		
3	竹田且「沖縄民俗の地位」を読む：民俗学と沖縄研究		
4	柳田国男と沖縄研究：柳田の沖縄研究への視点と方法		
5	折口信夫と沖縄研究：「沖縄の宗教」にみる視点と方法の特質		
6	伊波普猷と沖縄研究：「をなり神の島」にみる視点と方法		
7	佐喜真興英と沖縄研究：「シマの話」「霊の島々」にみる視点と方法		
8	比嘉春潮の沖縄研究：「翁長旧事談」にみる村落誌		
9	柳宗悦の沖縄研究：「方言論争」のかたるもの		
10	外国人による沖縄研究：戦前・戦後の外国人研究者の視点と方法		
11	W. リブラと沖縄研究：『沖縄の宗教と社会構造』にみる視点と方法		
12	馬淵東一と沖縄研究：オナリ神研究の展開と世界観研究の進展		
13	宮城栄昌の沖縄研究：『のろ調査資料』の展開		
14	竹田且の沖縄研究：祖先祭祀・比較民俗学の展開		
15	比嘉政夫の沖縄研究：祖先祭祀と親族組織研究の展開		
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など	初回の講義で研究史を紹介し、その上で課題文献を提示する。	
	学びの手立て	あらかじめ配布される資料、論文を丹念に読んで参加すること。	
	評価	議論への取り組みと内容。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗宗教特論Ⅱ	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲福 みき子	1年	minafuku@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	南島の民俗研究のなかで、民俗宗教に関する研究の蓄積はきわめて豊富である。このⅡでは近年の研究動向を踏まえ、祭祀儀礼や祭祀組織世界観、シャーマニズムなどのテーマを取り上げ、周辺地域を視野に入れた比較考察を目指す。	1から2週で沖縄の民俗文化・社会の理解の枠組みを取り上げたいえで、民俗社会の組み立て、村落、家族・親族の仕組みを理解し、社会諸制度の理解のもとで祭祀儀礼・祭祀組織・祭祀者、シャーマニズム、他界観などへの理解を深める。
到達目標	南島の民俗宗教に関する基礎的な事項を学び、それぞれが今後取り組むべき研究課題へのアプローチおよび研究論文の読解法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄民俗文化・社会の理解のために(1):馬淵論文「沖縄文化論叢・解説」を読む	
	2	沖縄民俗文化・社会の理解のために(2):馬淵論文を読む	
	3	近年の沖縄研究の展開概要:1970年代以降を中心に	
	4	村落の仕組みと変容	
	5	家族の構造	
	6	親族組織:門中とウェーカ	
	7	祖先祭祀	
8	村落祭祀(1):聖地と信仰		
9	村落祭祀(2):年中行事		
10	祭祀組織(1):ノロ制度		
11	祭祀組織(2):カミンチュ組織		
12	シャーマニズム(1):ユタをめぐる歴史		
13	シャーマニズム(2):地域社会とユタ		
14	シャーマニズム(3):東アジアとシャーマニズム		
15	民俗宗教の変容		
16	総括		
実践	テキスト・参考文献・資料など 初回の講義で基礎となる論文を紹介し、その上でフィールドワークのデータを用いつつ、講義と演習形式を併用しつつ進める。		
	学びの手立て あらかじめ配布される資料、論文を丹念に読んで参加すること。		
	評価 議論への取り組みと内容。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

本ゼミは、民俗文化領域において「沖縄の民俗」に関する基本的な理解を提供する科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗特論 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 政信	1年	makamine@11.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、民俗学の視点からみた南島（沖縄）の社会と文化に関する諸課題についてとりあげ、講義を行います。最初に民俗学の方法論や日本民俗学の学史における沖縄の位置付けについて概説を行ったうえで、沖縄の民俗研究で論点となっている具体的な課題についてとりあげていきます。琉球国という国家体制が民俗の形成や変容等に及ぼした影響についても、受講生の注意を喚起します。</p>	<p>①沖縄の民俗文化について関心があり、それを学ぶ意欲のある学生の受講を歓迎します。 ②沖縄の祭祀を中心にした映像資料を積極的に活用します。 ③日帰りの久高島巡見を実施します。 ④沖縄における民俗研究と歴史研究の接点について注意を向けます</p>
到達目標	<p>①民俗学の方法論や日本民俗学の学史における沖縄の位置付けについて理解できるようになること。 ②沖縄の民俗研究において論点となっているいくつかの課題について理解できるようになること。 ③琉球国という国家体制が民俗事象に及ぼした影響について理解できるようになること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	日本民俗学の方法論		
3	柳田国男の民俗学と沖縄		
4	沖縄における祖先祭祀の成立		
5	久高島の祭祀（映像鑑賞）		
6	久高島巡見		
7	国家祭祀としての久高島のイザイホウ		
8	沖縄の神女組織		
9	沖縄の門中		
10	沖縄の津波に関する伝承		
11	八重山黒島の豊年祭		
12	村の掟と制裁		
13	沖縄の霊魂観と他界観		
14	仮面と来訪神		
15	海をめぐる民俗文化		
16	まとめ		
テキスト・参考文献・資料など	赤嶺政信『シマの見る夢ーおきなわ民俗学散歩ー』ボーダーインク		
学びの手立て	講義内容と関係する文献を適宜紹介して、理解の深化を促す。		
評価	出席率、課題レポート、受講態度によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗特論Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 政信	1年	makamine@11.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、民俗学の視点からみた南島（沖縄）の社会と文化に関する諸課題についてとりあげ、講義を行います。最初に民俗学の方法論や日本民俗学の学史における沖縄の位置付けについて概説を行ったうえで、沖縄の民俗研究で論点となっている具体的な課題についてとりあげていきます。琉球国という国家体制が民俗の形成や変容等に及ぼした影響についても、受講生の注意を喚起します。	①沖縄の民俗文化について関心があり、それを学ぶ意欲のある学生の受講を歓迎します。 ②沖縄の祭祀を中心にした映像資料を積極的に活用します。 ③日帰りの久高島巡見を実施します。 ④沖縄における民俗研究と歴史研究の接点について注意を向けます
到達目標	①民俗学の方法論や日本民俗学の学史における沖縄の位置付けについて理解できるようになること。 ②沖縄の民俗研究において論点となっているいくつかの課題について理解できるようになること。 ③琉球国という国家体制が民俗事象に及ぼした影響について理解できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	民俗学の方法論－トウハシリを事例に－		
3	女性とケガレ		
4	民家等に見られる沖縄の世界観		
5	沖縄における祖先観の変遷－盆行事をめぐって－		
6	呪いの民俗		
7	久高島巡見		
8	ジェンダー的視点からみた沖縄の社会と文化		
9	鬼餅・正月行事の背景		
10	王権にまなざされた島－久高島－		
11	キジムナー伝説の諸相		
12	建築儀礼に見える自然観		
13	地割制社会における家－久高島の事例を通して－		
14	沖縄の婚姻習俗をめぐって		
15	沖縄の死生観		
16	まとめ		
テキスト・参考文献・資料など	赤嶺政信『シマの見る夢－おきなわ民俗学散歩－』ボーダーインク		
学びの手立て	講義内容と関係する文献を適宜紹介して、理解の深化を促す。		
評価	出席率、課題レポート、受講態度によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 出席率、課題レポート、受講態度によって評価する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗文化特殊研究 I	通年	木 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1 年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本ゼミの主眼は、南島民俗の研究史を概観して主要文献を精読し、「南島民俗文化」を研究するための基礎知識を身につけることにあ る。こうした作業を通じて、各受講生の問題意識を深め、研究主題 と方法の確立をめざす。また、年度後半には翌年度の修士論文執筆 に向けた論文構想・構成についても講義し議論を深める。</p>	<p>論文執筆は決して容易な作業ではない。しかし、基礎知識の学習、 先行研究の読解、論文構想・構成、調査・データ収集、考察・分析 という系統的なプロセスを学ぶことは、各自の研究活動のみならず 、社会・文化を理解し行動する姿勢においても、極めて意義深いも のである。「南島民俗文化」の理解を、いかに発展させるかを常に 意識した学びを実践してほしい。</p>
到達目標	<p>本ゼミの到達目標は、「南島民俗文化」研究の基礎を学び、かつどのような調査研究手法・構想・構成によって修士論文を作成するこ とが可能なのかを理解し、実際に修士論文執筆のための下準備を進めることにある。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	論文作成の作法（1）	
	3	論文作成の作法（2）	
	4	沖縄民俗研究史の概観（1）	
	5	沖縄民俗研究史の概観（2）	
	6	沖縄民俗研究史の概観（3）	
	7	文献資料読解（1）	
	8	文献資料読解（2）	
	9	文献資料読解（3）	
	10	文献資料読解（4）	
	11	先行研究研究文献読解（1）	
	12	先行研究研究文献読解（2）	
	13	先行研究研究文献読解（3）	
	14	先行研究研究文献読解（4）	
	15	まとめ	
	16	ガイダンス	
	17	調査成果報告（1）	
	18	調査成果報告（2）	
	19	調査成果報告（3）	
	20	先行研究研究文献読解（5）	
	21	先行研究研究文献読解（6）	
	22	先行研究研究文献読解（7）	
	23	修論構想（1）	
	24	修論構想（2）	
	25	修論構想（3）	
	26	修論論点整理（1）	
	27	修論論点整理（2）	
	28	修論論点整理（3）	
29	修論概要作成（1）		
30	修論概要作成（2）		
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜、紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 本ゼミは「南島民俗文化」に関する修士論文を作成するための基礎的な科目であるが、受講生には専攻・領域を問わず、南島文化研究科の関連諸科目を積極的に履修することを勧める。加えて、「南島民俗文化」に対する各受講生の理解を深化させることが、各自のキャリア形成においてどのような意味を持ち、そして沖縄の社会・文化へどのような貢献が可能かという問題意識を常にもちながら、本ゼミを履修してほしい。</p>
	<p>評価 受講生の真摯な研究態度と調査への取り組みが基本条件である。学期末に課題レポートを提出させるとともに、修士論文作成に向けた各受講生の学習・研究姿勢そして実際の取り組みを、総合的に評価する。期末レポート（修論概要＋α 70%）、平常点（30%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ、南島民俗宗教特論Ⅰ・Ⅱ、東アジア文化人類学特論ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲほか。</p>

※ポリシーとの関連性 本ゼミは、「南島民俗文化特殊研究Ⅰ」で学んだ諸点を踏まえ、修士論文を完成させるための科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗文化特殊研究Ⅱ	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	2年	石垣 直 (nishigaki@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本ゼミの内容は、修士論文作成のための指導が中心となる。前年度書いた「修士論文概要」に沿って、各受講生の研究テーマに関する先行文献や関連研究の読み込みを進め、調査内容および資料整理とその分析・提示・論旨展開等について、指導する。</p>	<p>論文執筆は決して容易な作業ではない。しかし、基礎知識の学習、先行研究の読解、論文構想・構成、調査・データ収集、考察・分析という系統的なプロセスを学ぶことは、各自の研究活動のみならず、社会・文化を理解し行動する姿勢においても、極めて意義深いものである。「南島民俗文化」の理解を、いかに発展させるかを常に意識した学びを実践してほしい。</p>
到達目標	<p>本ゼミの到達目標は、修士論文作成にある。事例報告・事例研究に止まらず、「南島民俗文化研究」の歴史の中で自身の研究がどのような位置づけにあり、今後どのような発展可能性をもっているのかを十分に意識した修士論文の完成を目指す。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	論文作成の作法(1)	
	3	論文作成の作法(2)	
	4	調査成果報告・検討(1)	
	5	調査成果報告・検討(2)	
	6	調査成果報告・検討(3)	
	7	調査成果報告・検討(4)	
	8	修論構成検討(1)	
	9	修論構成検討(2)	
	10	修論構成検討(3)	
	11	中間報告会準備(1)	
	12	中間報告会準備(2)	
	13	中間報告会準備(3)	
	14	中間報告会準備(4)	
	15	まとめ	
	16	ガイダンス	
	17	補足調査成果報告・検討(1)	
	18	補足調査成果報告・検討(2)	
	19	補足調査成果報告・検討(3)	
	20	補足調査成果報告・検討(4)	
	21	修論草稿推敲・論旨検討(1)	
	22	修論草稿推敲・論旨検討(2)	
	23	修論草稿推敲・論旨検討(3)	
	24	修論草稿推敲・論旨検討(4)	
	25	修論仮提出原稿の検討(1)	
	26	修論仮提出原稿の検討(2)	
	27	修論仮提出原稿の検討(3)	
	28	修論仮提出原稿の検討(4)	
	29	修論最終試験対策(1)	
30	修論最終試験対策(2)		
31	修論最終試験対策(3)		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜、紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 本ゼミは「南島民俗文化」に関する修士論文を作成するための基礎的な科目であるが、受講生には専攻・領域を問わず、南島文化研究科の関連諸科目を積極的に履修することを勧める。加えて、「南島民俗文化」に対する各受講生の理解を深化させることが、各自のキャリア形成においてどのような意味を持ち、そして沖縄の社会・文化へどのような貢献が可能かという問題意識を常にもちながら、本ゼミを履修してほしい。</p>
	<p>評価 受講生の真摯な研究態度と調査・論文執筆への取り組みが基本条件である。修士論文作成に向けた各受講生の学習・研究姿勢そして修士論文の最終的な内容をもとに、総合的に評価する。修士論文内容（70%）、平常点（30%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ、南島民俗宗教特論Ⅰ・Ⅱ、東アジア文化人類学特論ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲほか。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島歴史文化特殊研究 I	通年	木 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	1年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>修士論文を作成するための基礎的な作業を指導する。論文テーマの設定、先行研究の批判的検討および引用史料の解釈の検証、研究史の整理と問題点の抽出、論文における課題の明確化などである。修士論文の構想、研究史の整理について数回にわたって報告してもらいます。</p>	<p>県内外の図書館はもちろん、博物館や発掘調査現地説明会に足を運んで琉球史をめぐるモノや現場に接すること、学内外の研究会やシンポジウムに参加して雰囲気や議論に触れることは研究者としての財産になります。積極的に情報を収集して行動に移してください。</p>
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を踏まえ、修士論文における課題を明確化できるようになる。 ・修士論文の仮の章立てを作成できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、年間スケジュールの確認	
	2	卒業論文の概要①—先行研究と課題—	
	3	同②—引用史料と結論—	
	4	修士論文に向けて—テーマと問題意識—	
	5	先行研究の読み合わせ①—論文の読み方—	
	6	同②—当該論文の課題—	
	7	同③—当該論文の結論—	
	8	同④—当該論文の参考文献—	
	9	同⑤—当該論文の引用史料—	
	10	同⑥—引用史料の読み下し文の検証—	
	11	同⑦—引用史料の現代語訳の検証—	
	12	同⑧—当該論文の特徴—	
	13	修士論文の構想①—テーマの設定—	
	14	修士論文の構想②—先行研究との関係—	
	15	修士論文の構想③—引用史料の見通し—	
	16	夏季休暇中の調査研究計画の確認	
	17	夏季休暇中の調査研究について報告	
	18	研究史の整理①—先行研究一覧の作成 1）—	
	19	同②—先行研究一覧の作成 2）—	
	20	同③—引用史料リストの作成 1）—	
	21	同④—引用史料リストの作成 2）—	
	22	同⑤—史料の選定と読解 1）—	
	23	同⑥—史料の選定と読解 2）—	
	24	同⑦—先行研究の到達点 1）—	
	25	同⑧—先行研究の到達点 2）—	
	26	同⑨—先行研究の問題点 1）—	
	27	同⑩—先行研究の問題点 2）—	
	28	修士論文の構想④—課題の設定 1）—	
	29	同⑤—課題の設定 2）—	
30	同⑥—章立て（仮）の作成—		
31	春季休暇中の調査研究計画の確認		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト・資料】前期に読み合わせる論文は受講生と相談のうえ決定します。 【参考文献】受講生の関心に応じてその都度紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>先行研究の把握と批判的検討に寸暇を惜しまずつとめてください。</p>
	<p>評価</p> <p>先行研究の到達点と問題点の理解度（60％）、史料の選定と読解に取り組む姿勢（40％）によって総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度での修士論文執筆に向け、短期間ごとに達成目標を立て、持続的に調査研究に取り組んでください。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島歴史文化特殊研究Ⅱ	通年	木7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>修士論文の完成を目指した指導をする。章立てと問題意識の再確認、中間発表会で指摘された問題点を反映を含めた本論の充実、課題と結論の整合性および明確化などである。章立てに基づき、序論、本論(特に重要な章もしくは節)、結論について数回にわたって報告してもらいます。</p>	<p>学内外の研究会やシンポジウムに積極的に参加し、できれば発言・質問することを自らに課してください。</p>
到達目標	<p>修士論文を作成するうえで、先行研究を踏まえた課題を設定し、関連史料を適切・効果的に用い、説得力のある結論を導き出すことができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、年間スケジュールの確認	
	2	春季休暇中の調査研究について報告	
	3	修士論文の構成一章立てと問題意識の再確認一	
	4	序論について①一研究史の整理一	
	5	同②一課題の明確化1)一	
	6	同③一課題の明確化2)一	
	7	本論について①一前半の引用史料の読み下し1)一	
	8	同②一前半の引用史料の読み下し2)一	
	9	同③一前半の引用史料の現代語訳1)一	
	10	同④一前半の引用史料の現代語訳2)一	
	11	同⑤一前半の要点の確認1)一	
	12	同⑥一前半の要点の確認2)一	
	13	同⑦一前半の要点の確認3)一	
	14	中間発表会に向けた準備①一報告箇所決定一	
	15	同②一報告内容の確認一	
	16	夏季休暇中の調査研究計画の確認	
	17	夏季休暇中の調査研究について報告	
	18	本論について⑧一前半と後半の整合性の確認一	
	19	同⑨一後半の引用史料の読み下し1)一	
	20	同⑩一後半の引用史料の読み下し2)一	
	21	同⑪一後半の引用史料の現代語訳1)一	
	22	同⑫一後半の引用史料の現代語訳2)一	
	23	同⑬一後半の要点の確認1)一	
	24	同⑭一後半の要点の確認2)一	
	25	同⑮一後半の要点の確認3)一	
	26	結論について①一結論の明確化1)一	
	27	同②一結論の明確化2)一	
	28	同③一結論の明確化3)一	
	29	同④一課題との整合性の確認一	
30	同⑤一結論の最終確認一		
31	まとめ		

学	テキスト・参考文献・資料など
び の 実 践	<p>学びの手立て 重視すべき先行研究（著書）の序論と結論を繰り返し批判的に読み込んでください。</p>
	<p>評価 修士論文の作成や報告に取り組む姿勢（４０％）と論文の完成度（６０％）によって総合的に評価します。</p>
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近現代文学特論 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	1年		

学びの準備	ねらい (1) 文献探索の基礎を学ぶ。 (2) 日本/沖縄の作家のテキストを読み、沖縄文学の現在とその可能性について考える。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) ・発表、討議。 沖縄の近現代作家のテキストを取り上げる。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て 履修の心構え ・毎時間、発表担当者を設ける。
	評価 発表および文献探索法の基礎がどの程度身についているかによって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近現代文学特論 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	1年		

学びの準備	ねらい 日本／沖縄の作家のテキストを読み、沖縄文学の可能性について考える。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ・発表、討議。 沖縄の近現代作家のテキストを取り上げる予定である。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て 履修の心構え ・毎時間、発表担当者を設ける。
	評価 発表および文献探索法の基礎がどの程度身についているかによって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文化特殊研究 I	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	1年		

学びの準備	ねらい 学術論文を作成するための基本を学ぶ。周辺の資料を探索し、発表し、テーマの決定を模索する。学年末の紀要論文への寄稿を目標とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 1年を通しての研究計画の作成。 ② 調査、文献・資料収集の方法 ③ 参考文献、研究史の作成。 ④ 方法、視点を検討し、小テーマを設定する。 ⑤ 夏期合宿で中間発表会を行い、テーマの方向性を決定する。 ⑥ 多方面からの調査・検討を繰り返し、発表。 ⑥ 12月の紀要論文に向けテーマを設定し、執筆、手直し、推敲を重ねる。 ⑦ 論文合評会の反省点を踏まえて検討し、修士論文のテーマと概要を作成する（2月末提出）。
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>その都度指示する。</p>

学びの実践	
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に毎回発表を行い、進度を報告する。
	<p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 毎回個々に出した課題に取り組んでいるか。 ② 中間発表、年度末の論文（ノート）

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本言語文化特殊研究 I	通年	土 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学術論文を作成するための基礎を学ぶ。文献探索、調査等の基礎研究を通じてテーマおよび方法を確定し、修士論文までの具体的な研究計画を作成する。紀要への投稿を目標とし、修士論文の一部となる論文を執筆する。	メッセージ 研究書を一週間に一冊ずつ読破していくと、論文執筆能力が身につくはずである。
	到達目標 修士論文概要をまとめ、論文の構成について考える。	

学びの準備	ねらい 学術論文を作成するための基礎を学ぶ。文献探索、調査等の基礎研究を通じてテーマおよび方法を確定し、修士論文までの具体的な研究計画を作成する。紀要への投稿を目標とし、修士論文の一部となる論文を執筆する。	メッセージ 研究書を一週間に一冊ずつ読破していくと、論文執筆能力が身につくはずである。
	到達目標 修士論文概要をまとめ、論文の構成について考える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ①年間研究計画の作成（4月） ②調査、資料収集の方法 ③先行文献目録、研究史の作成 ④方法、視点の検討 ⑤夏期合宿で研究成果の中間発表を行う ⑥紀要論文の執筆、投稿（12月下旬提出） ⑦修士論文の概要を作成する（2月末）
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。
	学びの手立て 日本国語大辞典など大きな事典類を引くこと。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。
	学びの手立て 日本国語大辞典など大きな事典類を引くこと。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本言語文化特殊研究Ⅱ」では修士論文を完成させる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文化特殊研究Ⅱ	通年	土3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	2年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 修士論文を完成させ、研究者としての方法論を身につける。	メッセージ 迷いが生じたときは、原点に立ち戻り、ひたすらデータを打ち込むこと。
	到達目標 修士論文を完成させる。	

学びの準備	到達目標 修士論文を完成させる。
-------	---------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ①年間研究計画の作成 ②前年度末に提出した論文概要をふまえ、詳細な構想表を作成する ③7月末の中間発表会に向けて研究成果をまとめる ④中間発表での指摘、反省点をふまえ、構成、内容、方法等を総合的に再検討する ⑤夏期合宿において研究成果を発表する ⑥12月の講義終了時までに修士論文の下書きを提出する ⑦全体を通して総点検を行い、論文を手直しする（1月下旬提出） ⑧最終試験、発表会に向けて準備を行う
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。
	学びの手立て 日本国語大辞典など大きな事典類を引くこと。
	評価 ①中間発表 ②研究成果

学びの継続	次のステージ・関連科目 完成させた修士論文を踏まえ、論文を発表していく。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文化特殊研究Ⅱ	通年	火4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	2年		

学びの準備	ねらい 各自が設定したテーマに沿って、引き続き、調査、研究を行う。年間計画を立て、構想表を作成し、執筆、発表、検討を重ね、学位論文を完成する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ① 年間研究計画の作成。 ② 学位論文の構想表の作成と検討。 ③ 補足調査を行いながら、7月末の修士論文中間発表会に向けてのテーマを設定し、執筆する。 ④ 添付資料のあげ方、注記のつけ方、参考文献の選定に注意しながら、発表レジュメを完成する。 ⑤ 中間発表の反省点を踏まえ、夏休み明けまでに、学术论文の大まかな下書きをする。 ⑥ 下書きを元に、論文構成の補足、修正を行う。 ⑦ 1章ごとの検討を行いながら、12月の最終講義時までに修士論文を完了する。 ⑧ 全体を通してミスがないよう点検、完成する。 ⑨ 2月中旬の修士論文最終試験、論文発表会に向けての準備を行う。
	テキスト・参考文献・資料など その都度指示する。
	学びの手立て 履修の心構え ・基本的に毎回発表を行い、進度を報告する。
	評価 ① 毎回個々に出した課題に取り組んでいるか。 ② 学位論文。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学特論 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年		

学びの準備	ねらい 本講義は、万葉集歌を扱う。今から1300年ほど前を生きた万葉びとが詠んだ歌を、時代背景・作歌状況・作者の個性・習俗・ことば等々を踏まえながら、一首一首深く読み解く。	メッセージ
-------	---	-------

到達目標	
------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 『万葉集』とは何か（概説） 第2回 雄略天皇の歌 第3回 額田王の歌 第4回 有間皇子の歌 第5回 大津皇子・大伯皇女の歌 第6回 柿本人麻呂の歌（1） 第7回 柿本人麻呂の歌（2） 第8回 高市黒人・長意吉麻呂の歌 第9回 山部赤人の歌 第10回 山上憶良の歌 第11回 大伴旅人の歌 第12回 高橋虫麻呂の歌 第13回 大伴家持の歌（1） 第14回 大伴家持の歌（2） 第15回 東歌・防人歌 <p>定期試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『万葉集必携』 稲岡耕二編、學燈社。 『万葉集必携Ⅱ』 稲岡耕二編、學燈社。 適宜指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度 30 + テスト点 30 + レポート点 30 = 評価点</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学特論 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年		

学びの準備	ねらい 本講義は、万葉集歌を扱う。今から1300年ほど前を生きた万葉びとが詠んだ歌を、時代背景・作歌状況・作者の個性・習俗・ことば等々を踏まえながら、一首一首深く読み解く読解トレーニングを行う。特に柿本人麻呂の歌を扱う。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 『万葉集』と柿本人麻呂（概説） 第2回 人麻呂作歌(1) 第3回 人麻呂作歌(2) 第4回 人麻呂作歌(3) 第5回 人麻呂作歌(4) 第6回 人麻呂作歌(5) 第7回 人麻呂作歌(6) 第8回 人麻呂作歌(7) 第9回 人麻呂歌集歌(1) 第10回 人麻呂歌集歌(2) 第11回 人麻呂歌集歌(3) 第12回 人麻呂歌集歌(4) 第13回 人麻呂歌集歌(5) 第14回 人麻呂歌集歌(6) 第15回 人麻呂歌集歌(7)
	テキスト・参考文献・資料など 『万葉集』本文篇（埴書房） 伊藤博『万葉集釋注』（集英社）、澤瀉久孝『万葉集注釋』（中央公論社）
	学びの手立て
	評価 授業態度 30 + レポート点 70 = 評価点

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学特論ⅡA	前期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中世・近世の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の中世・近世文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。	メッセージ テキスト注釈の楽しみを知ってほしい。
	到達目標 先行研究を踏まえ、緻密なレポートを作成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本文学における中世と近世	プリントによる学習
	2	『日本霊異記』上巻・注釈	プリントによる学習
	3	『日本霊異記』中巻・注釈	プリントによる学習
	4	『日本霊異記』下巻・注釈	プリントによる学習
	5	『今昔物語集』天竺部・注釈	プリントによる学習
	6	『今昔物語集』震旦部・注釈	プリントによる学習
	7	『今昔物語集』本朝部・注釈	プリントによる学習
	8	『古事談』注釈	プリントによる学習
9	『宇治拾遺物語』注釈	プリントによる学習	
10	『古今著聞集』注釈	プリントによる学習	
11	『沙石集』注釈	プリントによる学習	
12	『発心集』注釈	プリントによる学習	
13	『十訓抄』注釈	プリントによる学習	
14	南島文学との比較・遺老説伝を読む	プリントによる学習	
15	まとめ	レポート作成	
16	レポートの書き方	レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。		
	学びの手立て 日本国語大辞典、沖縄古語大辞典など大きな事典類を引くこと。		
	評価 レポートによって成績を評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本古典文学特論ⅡB」でも先行研究を踏まえた緻密なレポート作成を学ぶ。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学特論ⅡB	後期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中世・近世の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の中世・近世文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。	メッセージ テキスト注釈の楽しみを知ってほしい。
	到達目標 先行研究を踏まえ、緻密なレポートを作成する。	

学びの準備	到達目標 先行研究を踏まえ、緻密なレポートを作成する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本文学における中世と近世	プリントによる学習
	2	『日本霊異記』上巻・注釈	プリントによる学習
	3	『日本霊異記』中巻・注釈	プリントによる学習
	4	『日本霊異記』下巻・注釈	プリントによる学習
	5	『今昔物語集』天竺部・注釈	プリントによる学習
	6	『今昔物語集』震旦部・注釈	プリントによる学習
	7	『今昔物語集』本朝部・注釈	プリントによる学習
	8	『古事談』注釈	プリントによる学習
	9	『宇治拾遺物語』注釈	プリントによる学習
	10	『古今著聞集』注釈	プリントによる学習
	11	『沙石集』注釈	プリントによる学習
	12	『発心集』注釈	プリントによる学習
	13	『十訓抄』注釈	プリントによる学習
	14	南島文学との比較・遺老説伝を読む	プリントによる学習
	15	まとめ	レポートの作成
16	レポートの書き方	レポートの作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。
-------	----------------------------

学びの実践	学びの手立て 日本国語大辞典、沖縄古語大辞典など大きな事典類を引くこと。
-------	---

学びの実践	評価 レポートによって成績を評価する。
-------	------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 先行研究を踏まえた緻密なレポート作成の能力は修士論文作成に役立つはずである。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究ⅡE	通年	水4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	1年		

学びの準備	ねらい 本授業のねらいは以下のとおりとする。 1. 研究方法に関する理解 2. 各自の研究テーマの確定 3. 専攻研究まとめと研究の位置づけの明確化 4. 研究計画(調査方法・時期、分析方法など)の確定 5. 基礎調査等の実施	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む) 授業と個別指導を取り混ぜながら行う。 ・前期では、研究の意味や基本的視点、研究に必要な情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認する。 ・論文購読、学会参加、実際の研究活動や発表に参加を通して研究活動についての理解を深める。 ・研究フィールドの確定と現場への参加を通して、実践例・事例等への接触と観察、基礎的な資料の作成を行う。 ・学会や研究会への参加を通して研究活動に取り組む。 授業計画 <前期> 第1回：オリエンテーション 第2回：各自の研究テーマの紹介。 第3回：研究課題とフィールドの明確化。 第4～8回：研究の意味と基本的視点、情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認 第9～10回：中間報告会へ向けた発表指導、個別指導。 第11～14：中間報告会への準備のための話し合いを中心に行う。課題の明確化、個別指導。 第15回：前期のまとめ。 8月上旬：研究科においての中間報告会 夏季休暇中：学会参加、研究活動を奨励。 <後期> 第16～18回：後期を始めるに当たって、夏季休暇中の進捗を確認。 第19～24回：個別研究指導。 第25～28回：修士論文提出に向けた指導を行う。 第29～30回：まとめ、提出。		
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 沖縄で学ぶ 福祉老年学 (学文社) 金城 一雄・国吉 和子・山城 寛 編著 2009年 健康長寿の条件：元気な沖縄の高齢者たち (株式会社ワールドプランニング) 崎原 盛造・芳賀 博 2002年 【参考文献】 適宜、論文等を紹介する。		
	学びの手立て		
	評価 ①出席、レポート提出。②クラス討論、授業内での発表。③研究テーマの確定および取組状況。④研究発表報告の内容と達成度。 出席およびレポート提出状況を重視する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名 比較社会文化特論 I	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	水 7	2
	担当者 桃原 一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	
学びの準備	ねらい 沖縄社会のみならず、アジアおよび太平洋諸地域の社会構造や文化事象との比較の中で、大学院生各自の研究テーマに関連した社会的な視点を習得すること。	メッセージ アジアおよび太平洋諸地域の社会構造や文化事象との比較を通して、沖縄社会の構造と変動について学んでいきましょう。		
	到達目標 社会構造とその変動および文化事象に関する文献精読とその理解、大学院生各自の研究テーマに関する発見力、応用力			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 大学院生各自の研究テーマに即して、沖縄社会の構造と変動および文化事象に関する文献を選書し精読する。また、沖縄社会のみならずアジア、太平洋諸地域との比較検討が可能となるような文献等も精読する。これらの文献に関するレジュメを大学院生各自が作成し、発表してもらう。発表後に講義担当教員とディスカッションを行い、各自の研究テーマとどのように関連するのか、どのような発見があるのかについて相互に理解を深める。			
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はないが、授業計画に記した内容に関する文献・資料などを適宜紹介し、発表課題としてする。			
	学びの手立て 大学院における少人数制の講義であるため、課題への取り組みが重要なポイントとなる。ただし、ただ単に文献を読みレジュメを作成し発表するだけではなく、文献の理解度、ポイントの整理力、自身の研究テーマに関連した発見や応用力がより重要となる。			
	評価 出席状況、課題への取り組み（文献精読とその理解度、レジュメ作成の要領、口頭発表など）、自身の研究テーマに関連した発見、応用力等を鑑み総合的に評価する。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：比較社会文化特論 II			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較社会文化特論Ⅱ	後期	水7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後またはメール等で問い合わせください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、ドキュメント分析、会話分析、聞き取り調査、参与観察など質的調査の方法に依拠したフィールドワークを行うためのトレーニングを目的とする。とくに、新聞・雑誌記事、資料文書などのデータの分析法（内容分析等）を習得するとともに、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析などに関する基本的理解を踏まえながら、実践的な学習を行う。</p>	<p>学部で学んだ質的調査の方法を修士論文レベルで考え、使用し、マスターするための科目です。本科目は専門社会調査士資格の認定科目です。資格取得を目指す大学院生は、必ず履修してください。</p>
到達目標	社会調査における質的方法の知識と技能をマスターし、修士論文の研究方法に使用できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：参考資料等の配布	質的調査の種類を調べる
	2	問題発見と問題構成（質的調査とその分析の意義・目的-仮説検証と仮説発見・構成の相違）	質的調査の事例を集める
	3	質的データ分析の一般理論的基礎①：ミルズ「類型的語彙」論	発話行為の社会学的意味を考察する
	4	質的データ分析の一般理論的基礎②：ガーフィンケル「エスノメソドロジー」	発話行為の社会学的意味を考察する
	5	質的データ分析の一般理論的基礎③：ゴフマン「行為の演技論」	身振りの社会性を考察する
	6	質的データ分析の一般理論的基礎④：現象学的社会学における「間-主観性」と調査の主・客問題	主観と間-主観の違いを調べる
	7	質的データ分析の実践①：内容分析（新聞・雑誌記事、資料文書等）	ドキュメント分析資料の収集
	8	質的データ分析の実践②：ドキュメント分析（記録日誌、日記、手紙等の分析）	ドキュメント分析の実践
	9	質的データ分析の実践③：聞き取り調査によるデータ収集の問題（インタビュー空間の設定と臨床性）	聞き取り調査の実践
	10	質的データ分析の実践④：ライフヒストリー分析（日常的経験世界と「語られる」経験世界の境界）	生活史法の事例を集める
	11	質的データ分析の実践⑤：様々な観察法I（参与観察と非参与観察の境界）	参与観察法の事例を集める
	12	質的データ分析の実践⑥：様々な観察法II（組織的観察法と非組織的観察法など）	観察方法の要点をまとめる
	13	学生の個別テーマに則した質的調査法と分析法の討議①	研究論文での質的調査の応用
14	学生の個別テーマに則した質的調査法と分析法の討議②	研究論文での質的調査の応用	
15	まとめとふりかえり	研究論文での質的調査の応用	
16	補習	ふりかえりと修士論文指導	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践』、新曜社、2008年。谷富夫編『ライフヒストリーを学ぶ人のために』、世界思想社、1996年。 適宜紹介する。		
学びの手立て	大学院教育の目標である修士論文の調査研究を前提とした講義になる。研究テーマの具体的な論理展開の参考にできるように心がけてください。		
評価	提出物（論文・レポートなど）、平常点（出席回数、発表やディスカッションへの取り組み姿勢）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島社会文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性 「南島文化」をより深く理解するためには、周辺地域との比較という視点もまた重要である。本科目の存在意義はそこにある。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	東アジア文化人類学特論 I A	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業の主眼は、東アジアの諸社会・文化に関する基礎的な理解を深めることにある。この目標を達成するため、今年度前期は中国とくに「漢民族」（漢族）の親族・社会組織について講義するとともに、主要著作・論文を複数取り上げて輪読する。	メッセージ 前半の数回において「文化人類学」および「東アジア」に関する基礎的知識を講義し、それ以降は担当を決め、各履修者の発表ならびに質疑応答を通じて内容の理解を深める。取り上げる著作・論文は授業の際に改めて提示する。
	到達目標 中国・台湾社会を事例としながら、東アジア社会の親族・社会組織に関する基礎的な理解を得ることができる。その理解のプロセスにおいて、(周辺の)異文化・社会との対比において、各自が属する社会・文化を比較文化的あるいは文化人類学的視点から捉え直すことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	文化人類学概論（1）	
	3	文化人類学概論（2）	
	4	人類学と東アジア研究	
	5	漢族社会とタテのつながり	
	6	漢族社会とヨコのつながり	
	7	文献資料読解（1）	
	8	文献資料読解（2）	
	9	文献資料読解（3）	
	10	文献資料読解（4）	
	11	個人発表（1）	
	12	個人発表（2）	
	13	個人発表（3）	
	14	個人発表（4）	
	15	まとめ	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは特になし。 ・主要参考文献は次の通り。 瀬川昌久2004『中国社会の人類学——親族・家族からの展望』世界思想社 瀬川昌久・西澤治彦（編訳）2006『中国文化人類学リーディングス』風響社 ・その他の関連文献については授業の際に随時紹介する。		
	学びの手立て 中国・台湾地域の事象ならびに広く文化人類学全般の議論を紹介するが、それらの視座・分析手法・論理構成を各自の修士論文にどのように活用できるかを常に意識しながら授業に臨んでほしい。		
	評価 授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末に提出してもらったレポート（テーマは学生が主体的に選択。各自の修士論文に関わるもので構わない）の内容を踏まえ、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本・沖縄の文化は勿論のこと、アジア地域に関する他領域の科目（基礎知識が乏しい場合は学部の授業も含む）なども積極的に履修してほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「南島文化」をより深く理解するためには、周辺地域との比較という視点もまた重要である。本科目の存在意義はそこにある。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	東アジア文化人類学特論 I B	後期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業の主眼は、東アジアの諸社会・文化に関する基礎的理解を深めることにある。	メッセージ 前半の数回において「漢族の年中行事」および「儒教・仏教・道教」に関する基礎的知識を講義し、それ以降は担当を決めて各履修者が担当の著作・論文の内容を発表し、質疑応答を通じて理解を深める。取り上げる著作・論文は授業の際に改めて提示する。
	到達目標 中国・台湾社会を事例としながら、東アジアの社会・文化に影響を与えてきた漢族の宗教に関する基礎的な理解を得ることができる。その理解のプロセスにおいて、(周辺の)異文化・社会との対比において、各自が属する社会・文化を比較文化的あるいは文化人類学的視点から捉え直すことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画			
		回	テーマ	
		1	ガイダンス	時間外学習の内容
		2	中国の年中行事	
		3	中国の思想と宗教(1)——儒教	
	4	中国の思想と宗教(2)——仏教		
	5	中国の思想と宗教(3)——道教		
	6	中国の思想と宗教(4)——民俗宗教の世界		
	7	文献資料読解(1)		
	8	文献資料読解(2)		
	9	文献資料読解(3)		
	10	文献資料読解(4)		
	11	個人発表(1)		
	12	個人発表(2)		
	13	個人発表(3)		
	14	個人発表(4)		
	15	まとめ		
	16			
	テキスト・参考文献・資料など			
	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特になし。 ・主要参考文献は次の通りである。 五十嵐真子2006『現代台湾宗教の諸相——台湾漢族に関する文化人類学的研究』人文書院 川口幸夫・瀬川昌久(編)2013『現代中国の宗教——信仰と社会をめぐる民族誌』昭和堂 渡邊欣雄1991『漢民族の宗教——社会人類学的研究』第一書房 <ul style="list-style-type: none"> ・その他の関連文献については、授業の際に随時紹介する。 			
	学びの手立て			
	中国・台湾地域の事象ならびに広く文化人類学全般の議論を紹介するが、それらの視座・分析手法・論理構成を各自の修士論文にどのように活用できるかを常に意識しながら、授業に臨んでほしい。			
	評価			
	授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末に提出してもらったレポート(テーマは学生が主体的に選択。各自の修士論文に関わるもので構わない)の内容を踏まえ、総合的に評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本・沖縄の文化は勿論のこと、アジア地域に関する他領域の科目(基礎知識が乏しい場合は学部の授業も含む)なども積極的に履修してほしい。
-------	---

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	東アジア文化人類学特論Ⅱ	前期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-津波 高志	1 年	tsuhatt@gmail.com	

学 び の 準 備	ねらい 奄美諸島から八重山諸島までの琉球弧全域の民俗文化を見渡す。特に、琉球弧の地域ごとの文化変化に配慮しつつ、家族・親族・村落などの社会的単位と関連つけて民俗宗教を捉える。	メッセージ
	到達目標	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義全体の概要	
2	琉球弧の歴史と言語		
3	民俗文化とは		
4	村落の歴史と景観		
5	平民系村落と土族系村落		
6	家族と世帯		
7	親族と出自		
8	シャーマンと司祭		
9	村落の祭祀		
10	家族・親族の祭祀		
11	シャーマニズム		
12	琉球弧の文化変化（1）		
13	琉球弧の文化変化（2）		
14	琉球弧の文化変化（3）		
15	講義のまとめ		
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に文献を挙げる。		
	学びの手立て 講義全体は4部構成、すなわち第Ⅰ部が「基本的知識」、第Ⅱ部が「村落と家族・親族」、第Ⅲ部が「民俗宗教」、第Ⅳ部が「琉球弧の文化変化」なので、それを意識しながら受講することが必要である。		
	評価 レポートで評価する。		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
-----------------------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	東アジア文化人類学特論Ⅲ	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-津波 高志	1年	tsuhatt@gmail.com	

学びの準備	ねらい 沖縄側から奄美諸島の文化をいかに理解すべきかという点を中心に講義を行う。特に、現在の文化の研究であっても、その背後にある時間的な深みに配慮することが如何に大切であるかについて学生に意識させたい。	メッセージ 津波高志『沖縄側から見た奄美の文化変容』（2012, 第一書房）をテキストとして用いるが、講義はパワーポイントで映像資料を補充しながら行う。
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	奄美の文化変容	
	2	奄美の葬制と墓制（1）	
	3	奄美の葬制と墓制（2）	
	4	奄美の葬制と墓制（3）	
	5	奄美の葬制と墓制（4）	
	6	奄美の立ち会い相撲（1）	
	7	奄美の立ち会い相撲（2）	
	8	奄美の立ち会い相撲（3）	
9	奄美の立ち会い相撲（4）		
10	奄美における女性神役の継承（1）		
11	奄美における女性神役の継承（2）		
12	奄美における女性神役の継承（3）		
13	奄美における女性神役の継承（4）		
14	琉球弧の葬制と墓制		
15	琉球弧の女性神役		
16	レポート提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など 津波高志『沖縄側から見た奄美の文化変容』（2012, 第一書房）		
	学びの手立て 近現代・近世・古琉球という具合に、琉球史の時代区分に沿いながら、各論を展開する。		
	評価 レポートで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化財保存特論	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	1年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 人類の歴史のなかで営為により残された遺産の中でもとくに物質的な文化財を中心に、その特質や変遷などについて学び、現代社会において、どのように保護し、活かしていくのか考える。とくに現在の文化財行政で実践されている埋蔵文化財や史跡、名勝、記念物、建造物などの調査・研究、保存技術などの成果を学び、復元整備と観光等における活用の実情や課題などを具体的に紹介し考察する。	メッセージ
	到達目標 現代社会において、文化財の保護がどの様になされ、活用されているかを理解し、また、課題を考えてもらう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 基本的には講義型式をとる。 内容は文化財保護法、文化財の指定、保存と整備、活用のあり方についてとりあげる。
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。講義の中で、随時紹介する。
	学びの手立て 文化財は地理、歴史的環境と密接に関係していることを認識すること。事前に推薦する参考文献、資料を読むことを薦める。
	評価 授業参加の度合い、レポートの提出で評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「南島先史学Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論Ⅱ」がある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民族誌特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	LC 教員 1	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	学びの手立て

学びの実践	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------